

訴訟法/増島六一郎(講義) ; 石山弥平(編輯)
(英吉利法律講義録(1886(明治 19)年度 第 1 年級))

このPDF ファイルは、英吉利法律講義録(1886(明治 19)年度 第 1 年級)(原裝本デジタル・データ)から、訴訟法の部分を抽出して編集したものである。

2015 年 7 月 中央大学大学史資料課

訴訟法

ばりすどる
法學士

增島六一郎講義

校友石山彌平編輯

編者曰訴訟法ノ科目ハ本校ノ規則ニ依レハ第一年及二年級ニ入ル
ヘキモノナレトモ目下裁判事務ノ改良ハ官民間ノ一大急務ニ迫リ
タレハ是ヲ研究スル固ヨリ一日モ猶豫スヘカラサルヲ以テ校内生
ノ便宜ヲ計リ本期講義録ニ掲載スルコトニセリ讀者請諒セラレヨ

第一回

凡ソ法律ヲ學フニ二ノ目的アリ一ハ法律ノ如何ナルモノタルヤヲ學
テ而シテ學識ヲ得以テ立法官若クハ行政官トナルニアリ一ハ法律ヲ
學テ而シテ實地ニ之ヲ運用セント欲スルニアリ第一ノ目的ハ學識ヲ
得ルニハ相違ナキモ凡ソ學問ハ只理論ヲ學フノミニテハ足ラス古昔
ノ漢學者ハ四書五經ヲ讀ンテ傲然トシテ政治ノ常態君子賢士ノ形迹

若クハ天下ヲ治ムルノ策等ヲ喋々辯論スルヲ常トス而シテ今其吐露
スル所ノ事柄ヲ實地ニ行ヒ得ルヤト云フニ言行相反シテ一モ實地ニ
活動セシムルコト能ハス只机上ノ空談ノミ今法律學ヲ座上ニ學テ政
治家トナリ法律ヲ修メテ立法官若クハ行政官トナル者アルモ未タ以
テ熟練ノ政治家ヲ生スル能ハス又法律ノ精神ヲ知ル能ハス立法官若
クハ行政官トナリテ實地ニ其事務ヲ行フトキニ其曾テ學ヒタル學問
カ幾分ノ利益ヲ與フルコトアルモ書籍ヲ讀ンタルノミノコトナレハ
未タ實地法律ノ精神ヲ學フコト能ハス故ニ法律ヲ學フニハ其目的ノ
第一第二タルヲ問ハス法律ヲ實地ニ應用シタル人ニ非サレハ眞ニ法
律學ノ利益ヲ得ルコト能ハス立法官學識ヲ有シ法律ヲ制定スルニ其
文面上如何ニモ美ナルモ其實用ノ點ニ至リテハ不便アルハシ若シ實
地ニ事務ヲ取り扱ヒタル人カ立法官トナリテ法律ヲ制定スルニ當テ

ハ其法律ハ着々實地ニ符合シテ其應用圓滑ナリ又行政官モ其政府ヨリ發シタル法律ニ基キテ事務ヲ取扱フモノナリ其實地ニ熟練シタルモノニ非サレハ其事務澁滯シテ迅速ニ處斷スルコト能ハサル可シ故ニ法律ノ學識アルモノ立法官若クハ行政官トナリタルトキハ未タ實地ノ經驗ナキヲ以テ實地ニ應用スルニハ必スヤ實地法律家ノ指揮ニ從テ事務ヲ處斷セサル可カラス余聞クニ英米國ノ官府ニ於テハ各々實地ニ經驗アル代言人ヲ雇入レテ法律施行ノ補助トナシ英米ノ立法院若クハ行政局ニ於テハ實際法律家ノ勢力多シト云フ前述ノ如キヲ以テ法律ヲ學フニハ只理論ノミヲ學フモ有益ニ非ス兼テ實地ヲモ研究セサル可カラス有名ナル小説家カーノ小説ヲ書セシニ其書中ニ一ノ志ハ高尚ナルモ至テ貧窮ナルノ人アリ其人曰ク智識ハ實力ナリ故ニ學問サヘスレハ智識モ發達シテ自然ノ高等ノ人物トモナルコトヲ

云フテ終ニ失敗シタルノ奇談アリ余ハ考フルニハ智識ハ實力ヲ得ル
ト云フヨリモ寧ロ勇氣ヲ與フル者ナリト云フヲ眞ニ近シトス何トナ
レハ智識アレハ事物ノ理判然シテ一モ疑惑ヲ生スルモノナク隨テ恐
怖ノ念ヲ起スコトモナケレハナリ今法律ヲ學フニハ只法理ヲ研究ス
ルノミニテハ未タ以テ足レリトセス必スヤ之ト同時ニ勇氣テウナル
モノヲ養成セサル可カラス一ノ法律博士ニ問テ或者ノ説ハ法理ニ合
フヤ否ヤト云ヘハ博士ハ自己ノ學識ニ照シテ其答ヲナス可シト雖モ
今一ノ爭論事件ヲ提出シテ此ノ事件ハ如何ナル方法手段ヲ以テセハ
其訴旨ヲ達スルヲ得ルヤト問ヘハ博士ハ之カ答辯ニ苦ムコト往々ア
ル可シ之ヲ要スルニ學問ノ要ハ事務ヲ取行フニ付キ一ノ見識ヲ與フ
ルモノナリ故ニ學問アルノ判事ト學問ナキノ判事トハ其事務ヲ取扱
フノ點ニ於テ大差アルモノニシテ學問アル判事ハ一言ヲ吐クモ躊躇

セス一個ノ見識アリテ事務ニ當テ狼狽セス因テ事務モ舉リテ延滯ス
ル等ノ患毫モナシ無學ノ判事ハ之ニ反ス然リト雖モ如何ニ學問アル
モ實地ニ熟練スルニ非サレハ其學問ノ技倆ヲ充分呈出スルコト能ハ
ス而シテ法律ヲ學ヒタルヨリシテ得ル間接ノ利益則チ勇氣ヲ得テ驚
カサルノ精神ヲ養成セント欲セハ必スヤ第二ノ目的ヲ以テ法律ヲ學
ハサル可カラサルナリ又法律ヲ學フニハ實地ニ付キ研究スルニ非サ
レハ其用明カナラス其實地ニヨリテ得タル所ノ經驗ハ大ニ法理ヲ發
見スルモノナリ而シテ學問セサル人ノ勇氣ハ之レ匹夫ノ勇ナレハ貴
重スルニ足ラス因テ學問ト實地トハ兼修セサル可カラサルモノナリ
今日ヨリ余ノ諸君ニ向テ開講セントスル訴訟法ハ則チ法律ヲ學フニ
付キテ實地ノ助ナスモノナリ

法律ニ二種アリ第一ハ一般ノ法律ノ何モノタルコトヲ示スモノ第二

ハ其示サレタル法律ヲ運轉應用スルノ道如何及其規則如何ヲ示スモ
ノナリ之レ刑事ト治罪法民法ト訴訟法ノ區別アル所以ナリ
凡ソ法律ヲ適用スルニ當リ法律家ハ何ニヨリテ之ヲ行フヤト云フニ
已ニ學得シタル智識經驗ニヨリテ應用スルモノナリ而シテ其目的ハ
事實ヲ取リテ其眞偽ヲ糾シ其事實一定シタル上ニテ之ニ適スルニ法
律ヲ以テスルニ過キス而シテ其之ヲナスニ當リテ履行スヘキ規則ヲ
示スモノヲ訴訟法ト云フ
前述ノ如クナルヲ以テ法律ト實地トノ現象ヲ以テ自由ニ活動スルハ
之レ法律家ノ職務ナリ然リト雖モ其法律家ノ職務ニモ二種アリ第一
ハ法理ニヨリテ人ノ權利義務ノ如何ヲ作ルコトヲ專務トスルモノニ
シテ第二ハ已ニ定マリタル人ノ權利義務ヲ論シテ甲乙ノ權利義務ハ
果シテ如何ヲ取調ルモノナリ而シテ第一種ノモノヲ英語ニテ「乙んべ

いやんさる「ト云フ此ノ「こんべいやんさる」ハ法理若クハ法律ニヨリテ
權利義務ヲ創設スルモノナ云フ第二種ノモノハ英語ニテ「ふりだる」ト
云フ之ハ已ニ創設セラレタル權利義務果シテ如何ヲ取調フルモノナ
云フ因テ「こんべいやんさる」ハ常ニ其事務所ニアリテ人ノ相談ヲ受ケ
契約書財産讓渡書其他權利義務ヲ他人ニ移轉スル等ノ事務ヲ取扱ヒ
單ニ事務所内ニ於テ事務ヲ取扱フモノナ云フ而シテ其仕事ヲ名ケテ
「ちゑんばる、うをるく」ト云フ「ふりだる」ハ之ニ反シテ常ニ裁判所ノ法庭
内ニ於テ辯論スルモノナ云フ固ヨリ判事ト判事ト代理人トハ其區別アルモ
其取扱フ事務上ヨリ論スレハ判事モ代理人モ此ノ「ふりだる」ノ中ニ入
ル、モ可ナリ彼ノ「こんべいやんさる」ノ事ハ今日日本人ノ思想外ノモノ
ナレハ日本人ニ於テハ奇怪ノ感アルモ計レスト雖モ此ノ「こんべいや
んさる」ノ職タル實ニ必要ノモノニシテ公益ヲ保護スルモノナリ則チ

「こんべいやんさる」ノ作りタル貸借證書若クハ讓渡其他百般ノ契約ニシテ完全ノモノナラシメハ訴訟起ルコトナシ好シヤ訴訟提起セラル、コトアリトスルモ其訴訟ノ争ヤ只法律ノ規定若クハ解釋ニ止マルモノニシテ敢テ其訴訟ノ事實如何ヲ争論スルノ必要ナシ因テ此ノ「こんべいやんさる」トナルモノハ法理ニ通シ實驗ニ長シタルモノニ非サレハ此ノ如キ契約若クハ證書ハ争論ヲ來スノ憂アレハ之ヲ防禦スルニハ斯ク々々ノ手段ヲ用ヒテ其争論ヲ防禦セサル可カラスナト之ヲ法律ニ監シ實見ニ徴シテ證書等ヲ作ラサル可カラス之ヲ要スルニ「こんべいやんさる」ノ職タル政府ノ發布シタル法律ニヨリ作爲シタル人ノ權利義務ヲ明確ニスルニ過キサルナリ然リト雖モ弘法大師モ筆ノ誤マリアレハ斯ク最初ニ嚴確ニ人ノ權利義務ヲ一定スルモ或ル事情ヨリシテ原被兩造間ニ一ノ争論ヲ惹起スルコトモアリ其争論起リタ

ルトキ茲ニ初メテ「ふりだる」ノ事務ヲ生スルモノナリ
前述ノ如ク法律家ノ職務ハ法律ト實地ノニニ關スルコトヲ説キタリ
而シテ其法律ヤ多ク其事實ヤ千種ナレハ如何ナル事實ニハ如何ナル
法律ヲ適用スルヤヲ知ラント欲セハ法理ヲ學ヒ得テ豫テ養成シ得タ
ル所ノ勇氣ヲ以テ實地ニ取扱フモノニ非サレハ能ハス其法律ハ誰レ
カ造ルヤト云フニ法律ヲ造ルモノハ政府ナリ事實ヲ造リ出スモノハ
人民ナリ元來法律ヲ發スルノ目的ハ決シテ人間ノ千變萬化ノ事實悉
皆ヲ支配セント欲スルノ意ニ非ス只政府カ治者ノ位ニアリテ政府ト
人民若クハ人民ト人民間トノ爭論不便ナカラシメンカ爲メ豫メ備ヘ
タルモノニ過キス則チ古昔ヨリ學者若クハ政治家カ實驗セシ所ノ形
迹ニ付キテ其大略ヲ定メタルモノナリ要スルニ法律ハ人間ノ行爲標
準ノ概畧ヲ備フルモノニ過キス今一ノ法律ヲ以テ人間ノ千變萬化ノ

行爲ヲ規定セント欲スルモ到底爲シ能ハサルコトナリ故ニ法律ハ只
其概畧ヲ定メ置キテ其外ノ事ハ一切人民ノ自由ニ權利義務ヲ作爲ス
ルニ任セサル可カラス例ヘハ契約法ノ如キモ只契約ヲ結フニハ斯ク
々々ノ方式若クハ手段ニヨラサレハ効力ヲ與ヘスト云ヒ其大畧ヲ定
メテ其契約ハ如何ナル種類ノモノナリト雖モ各人自由ニ結約スルコ
トヲ得可キナリ前述ノ如ク法律ハ只豫定スルモノニ過キサレハ之ヲ
適用スルノ事實生スルニ非サレハ法律ハ其効用ヲ顯スコト能ハサル
ナリ故ニ「こんべいやんざる」カ最初約束ヲ結フトキニ嚴正ナル契約書
若クハ讓渡書等ヲ調製スルトキハ決シテ事實ノ爭ヲ生スルコトナク
從テ法律ヲ適用スルニ餘地ナカル可キナリ
英國ノ法律ト他國ノ法律トノ差異ハ英國ノ法律ハ判決例ヨリ成ルモ
ノニシテ實地ヨリ生スルモノナリ故ニ其判事モ代言人モ重モニ法律

テ實地ニ學得シタルモノナレハ其法律ヤ一モ事實ニ適合セサルカ如キ無用ノ法ナシト云フモ可ナリ之ニ反シテ大陸ノ法律ハ政府カ先ツ人間一般ノ行爲ノ傾向ヲ見テ其大畧ヲ規定スルモノナレハ其法律ハ事實ニ適合セサルモノ鮮少ナラサルニハアラサルカ法律ハ彼ノ原則ノ如ク人皆ナ知ルモノトスレハ一ノ訴訟ノ起ルニ當リテ一ニ之ヲ證明スルヲ要セス而シテ人民ノ作りタル事實ハ出沒極マリナキモノナレハ其事實ヲ前以テ豫定スル能ハサルヲ以テ必ス一ノ事實惹起スルトキハ其事實ハ何ソヤ又其事實ハ眞ナルヤ僞ナルヤヲ證明セサル可カラズ其法律ト事實トヲ取リテ爭論ノ結局ヲ定ムルモノハ判事ト代言人ノ職ナリ而シテ已ニ一定シタル法規ト其起リタル事實トヲ比較セハ此ノ如クナルト斷決スルハ則チ裁判ナリ

彼ノ論理學ナルモノハ事物ノ眞理ヲ辯論スルノ規則ニシテ大命題ナ

ル一般ノ原則ヲ以テ小命題ナル各自ノ事實ニ適合シテ其當否ヲ斷案
スルモノニシテ其大命題若クハ小命題ノ一ヲ取り誤マルカ又ハ大命
題小命題ノ二者ヲ比較シ誤マルトキハ其斷案モ決シテ真正ノ斷決ヲ
得ルコト能ハス今訴訟法ナルモノハ如何ナル事實ニハ如何ナル法律
ヲ適用スルヤ又其事實ハ如何ニシテ證明スルヤ等ノ規則ヲ研究スル
モノナレハ則チ法律ト事實トヲ比較シテ一ノ判決ヲナスモノニシテ
若シ其法律若クハ事實ノ一ヲ調ヘ誤ルカ若クハ二者ヲ比較シ誤マル
トキハ其裁決モ勿論誤謬タルヲ免カレサル可シ其理タル論理學ノ事
物ノ眞理ヲ辯論スルノ方法ト少シモ異ナルコトナシ實ニ訴訟法ハ法
律學ノ論理法ト云フテ可ナリ

已ニ述ヘタル如ク法律ハ立法官ノ制定スル所ノモノニシテ初メヨリ
豫定スルモノナリ事實ハ人民ヨリ作り出ス所ノモノニシテ初メヨリ

一定スルモノニ非サルナリ而シテ法律アリテ然後ニ事實ノ生スルハ
通常ノコトナルモ只法律アルノミニシテ事實ノ生セサルトキハ法律
ハ活動スルヲ得ス則チ事實ナルモノ生シテ始メテ訴訟起ルモノナリ
若シ法律ノ設ケアルノミニシテ事實生セサレハ實ニ黄金世界ト云フ
可キナリ已ニ法律ハ豫メ一定スルモノナレハ其適用如何ハ判事之ヲ
知ルヲ以テ裁判スルニ當リテ別ニ之ヲ證明スルニ及ハスト雖モ事實
ニ至リテハ裁判官之ヲ知ラス只獨リ代官人之ヲ知ルモノナレハ一ノ
訴訟ヲ提起セントスルニハ必スヤ其事實ノ如何ヲ陳述證明スルヲ要
ス則チ法官ハ法律ノ疑ハシキヲ解釋シ代官人ハ事實ヲ陳述スルモノ
ナリ此ノ如ク事實ヲ陳述スルハ代官人ノ職務ナリト雖モ其陳述ノ眞
否ヲ決スルニハ證明ヲ待タサル可カラス故ニ今一ノ訴訟アルニ當リ
テハ二個ノ必要ノ事アリ第一事實ノ何物タルヲ陳述スルコト第二事

實ハ眞否ヲ證明スルコト之レナリ而シテ其事實ハ如何ナル方法ニヨ
 リ陳述セサル可カラズ其事實ハ如何ナル方式ニヨリテ證明セサル可
 カラサルコトハ自ラ定レリ其事實ヲ陳述スルノ法則ヲ訴答法規ト云
 ヒ其事實ヲ證明スルノ法則ヲ證明法規ト云フ而シテ此ノ二法規ノ法
 律ニ於ケル恰モ車ノ兩輪鳥ノ雙翼アルカ如ク此ノ二法規アリテ始メ
 テ法律ハ活動スルコトヲ得ヘキナリ
 右ノ二法規ハ法律家カ法律ヲ實地ニ活動セシムルニ當リテ暗々裡ニ
 覺得シタル所ノモノニシテ決シテ政府ヨリ發布シタル特定ノ法律ニ
 非サルナリ訴訟法中其事ヲ記セサルニアラスト雖モ只其大畧ヲ示ス
 ニ過キス然リト雖モ判事代人訴訟ヲ取扱フニ當リテ此ノ二法規ニ
 ヨルニ非サレハ其訴訟ヲ充分ニ審理スルコト能ハス凡ソ英法ノ長所
 ハ實地應用ノ術ニ巧ナルニアリ而シテ其實地應用ニ妙巧ナルハ必竟

此ノ訴答法規證明法規ニ長スルニヨル則チ事實ノ陳述及ヒ證明ノ方法ニ熟練スルニアルナリ本月二十五日ニ富士見軒ニ於テ本校ノ新年宴會ヲ開キシニ横濱駐劄ノ英國領事はねん氏カ演說セラレタルニ本校ハ英吉利法律ヲ教授スルノ學校ナレハ英法ノ長所トナス所ノモノヲ取ル可シ而シテ英法ノ歐州大陸諸國ニ向テ誇ル所ノモノハ證據法則チ證明法規ノ完全ナルコトナリト則チ英國ノ法庭ニ於テハ事實ニ關係ナキ無用ノ陳述無用ノ證據ヲ提出スルヲ許サス因テ裁斷迅速ニシテ少シモ澁滯ノ患ナシ又英國ノ判事代言人ノ訴訟ニ敏捷ナルハ此ノ二法規ニヨリテ陳述ス可キコトヲ陳述シ證明ス可キコトヲ證明スルニ其道ヲ知ルカ故ナリト要スルニ實地法律家ノ優劣ハ此ノ二法規ノ秘訣ヲ得テ應用ノ妙ヲ得タルト否トニアリ

第二回

凡ソ訴訟ヲ取扱フハ一ノ事件ノ事實ヲ取扱フト同シク法律家ノ其技
術ニ長スルト否トハ唯其事件ノ事實ヲ集メ之ヲ總轄シ又之ヲ分析シ
其事實ノ關係スル所ト否トヲ分明ナラシムルニ外ナラス之ヲ醫師ニ
譬フレハ深ク訴訟取扱ニ慣レタル人ハ恰モ名醫カ病者ノ言ハサルコ
トヲモ推知スルト同ク依頼人ノ未タ云ハサルコトト雖モ尙ホ其之ヲ
推シテ不足ナル旨ヲ告ケ此アレハ必ス彼アルヘシト推問スルカ如シ
夫ノ藪醫ニシテ愚暗ナル病人ヲ取扱フ如キハ病者ノ云フ所ヲ逐一聞
得タル後ニアラサレハ治療ヲ施スヲ得サルモ名醫ハ然ラサルナリ又
代言人ノ學識經驗ナキ者ノ如キモ之ト同シク依頼人ノ述フル所ハ何
ニ限ラス都テ依頼人ノ言フ所ヲ聞キタル後ニアラサレハ是非ノ判斷
ヲ下スコトヲ得サルナリ

此ノ如ク醫師ニテモ又代言人ニテモ一ノ事柄ヲ聞ケハ所謂一ヲ聞テ

十ヲ知ルノ智能ヲ具ヘテ其相互ノ關係スル所ヲ知リ之ヲ取捨折衷ス
ルコトヲ得ルモノヲ可ナリトスヘシ此ノ如クセハ其訴訟ヲ取扱ヒ病
者ヲ療治スルニ於テ最モ容易迅速ヲ感スヘキ也

此ノ如クシテ法律家ノ事實ヲ集メ又其集メ方ノ巧拙ヲ生スル次第ナ
リ茲ニ諸君ニ注意スヘキコトハ代言人ハ唯學問ノミニテ可ナラス實
地ニ付テハ萬般ノ區別生スレハナリ既ニ判事代言人ハ訴訟ヲ取扱フ
者ナルコトヲ述ヘタルカ如ク先ツ一件ノ書類ヲ集メ之ヲ取扱フモノ
ナレトモ二者各其職ヲ異ニス判事ハ代言人ノ陳ヘシ事實中論點ニ必
要ナルモノ眞正ナルモノ及事實ノ法律上ノ結果如何ヲ調ヘ之ニ適用
スルニ法律ヲ以テスルニ止マルナリ然シテ代言人ハ判事ヲシテ事件
ニ付キ論點ノ必要ナル所ヲ知ラシメ且之ヲ證明シテ法律ノ適用ヲ判
事ニ求ムルナリ斯ク二者ノ別アレトモ訴訟法ナル舞臺ノ役者ハ取モ

直サス判事ト代言人ナリ
 又既ニ述フル如ク訴訟法ノ兩輪雙翼トモ稱スヘキモノハ訴答法規及
 ヒ證明法規是ナリ然レトモ先ツ判事代言人ノ何モノタルカチ知ラサ
 ルヘカラサレハ予ハ第一ニ裁判所ノ構成ヨリ訴訟法ヲ述ヘントス
 予カ今ヨリ講述セントスル訴訟法ハ左ノ部類ニ隨ヒ演フヘシ

- 第一 裁判所ノ構成
- 第二 訴訟關係人チ呼出ス規則
- 第三 訴訟ノ事實チ提出スル規則
- 第四 提出シタル事實チ證明スルノ規則
- 第五 訴訟ヲ審理シテ下ス所ノ裁判ヲ管理スル所ノ規則
- 第六 裁判ヲ執行スル規則

右六目ノ外控訴上告及ヒ其他枝葉ノ方法ニ關シタル規則モ亦訴訟法

ニ於テ講スヘキモノトス
第一ニ裁判所ノ構成ヲ論スル理由ハ卽チ判事代言人ハ如何ナル舞臺
ニテ如何ナル器具ニ依リ其技術ヲ施スカヲ知ルヲ要スルニ在リ余之
ヲ講スルニ方リ英吉利及日本ノ制度ヲ比較セントスルナリ又何故訴
訟關係人ヲ呼出ス規則ヲ第二ニ論スルカト云フニ諸君ノ知ラル、通
リ司法裁判ノ事タル既ニ述フル如ク政府法律ヲ定メテ豫メ人民ノ求
ニ應スルニ過キス故ニ政府カ特別ノ官吏ヲ定メ人民ノ求刑又ハ出訴
ニ係ル事柄ヲ主トラシメ訴訟ニ付キ利害ヲ有スルモノヨリ之ヲ請求
セサレハ裁判セス唯裁判所ハ政府ノ造クルモノニシテ救正ヲ乞フモ
ノハ何時ニテモ來ルヘシ然ラハ則チ法律ノ規定ニ隨ヒ之ヲ許スヘシ
ト云フニアリ故ニ民事ノ如キハ人ヲ拘留スルコトヲ得サレハ其相手
ヲ裁判所ニ引出シ後ニ其人カ裁判所ヨリ直接ニ命令ヲ受クルコト、

ナルナリ此ノ如ク相手ハ裁判所ノ管理内ニ入ルヘキヲ以テ裁判所ノ次キニ訴訟人ヲ召喚スル規則ヲ説クヘキナリ夫ヨリ第三第四ヲ説キ終レハ先ツ訴訟ノ運命ニ達シタルモノナリ法律ノ適用解釋ハ必スシモ之レアラサレハ直チニ第五ニ移リ如何ナル點ニ付テ裁判スヘキヤノ規則ヲ論スヘキナリ固ヨリ如何ニ裁判スルカハ判事代言人ニテ其學識職務上爲スヘキ事柄ナレハ訴訟法中之ヲ講セス寧ロ他ノ法類中ニ屬ス第六ニ至リテハ裁判執行ノコトニシテ裁判ハ一箇ノ命令タルニ過キサレハ之ヲ執行スルニハ判事以外ノ手ヲ經サルヘカラス是等ハ裁判所内ノ執行局ノ部ニ屬スルモノトス其他裁判アリ執行アレハ訴訟ハ茲ニ定マルモ控訴上告等アレハ其他枝葉ノ手續ハ之ヲ第七ニ説クモノトス

訴訟法ノ區域大概此ノ如シ日本ニテハ法律モアリ又裁判所ノ構成ア

リト雖モ完全ナル訴訟手續ノ改良未タ成ラス又訴訟ヲ審判スル所ノ
判事及ヒ之ヲ取扱フ代言人ノ如キ大概子不完具ナルヲ以テ如何ニ金
科玉條ト稱セラル、法律モ之ヲ運用スルコト其妙ヲ得サルナリ
凡ソ物ノ進歩ヲ論スルニ付キ制度文物ノ如キハ皆理論ヨリスルコト
ヲ得又實地上ヨリスルコトヲ得而シテ其發達モ亦其一ヲ先キニシテ
又其一ヲ後ニスルト常ニ同カラス日本ノ制度タル實地ヨリ發達セス
シテ論理ニ據リタルモノ、如シ蓋シ英ノ訴訟手續ハ實地上ヨリ來リ
タルモノニシテ理論ニ依ルモノニアラス故ニ完全無缺ナリトスルモ
日本ノ如キハ他國ノ理論ヲ撮リ制定シタルヲ以テ實地上頗ル不都合
ナルモノアリテ勢ヒ改良セサルヘカラス是ニ於テカ昨年司法官制ノ
發布アリ頃者又訴訟法ノ編纂成リシト聞ク實ニ我法律ノ改良ハ昨十
九年ヲ以テ第一着ノ端ヲ發セシモノト云フヘシ

裁判所ノ
構成

裁判所ノ
位置及權
限

Supreme court of
Judicature

第一章 裁判所ノ構成ヲ論ス

第一節 裁判所ノ位置及ヒ權限

英國裁判所ヲ分チテ地方裁判所及ヒ高等裁判所ノ二トス曰ク「かうん
 てーこーど」曰ク「すぷりーむこーど、れふ、じゆでいけちゆあ」是ナリ然シ
 テ英國ヲ六十區ニ分チ一區毎ニ一或ハ二ノ地方裁判所ヲ置ケリ地方
 裁判所ハ契約負債等ハ金額二百五十圓身代限處分ハ動産ナレハ千圓
 不動産ナレハ千五百圓婚姻及遺囑書等ハ二千五百圓以下ノ訴訟ヲ審
 判スル所ナリ

地方裁判所ノ判事ハ少クトモ七年間「ぼりすどる」ノ資格ヲ以テ代言事
 務ヲ取扱居タル者ニシテ其年俸ハ七千五百圓ナリ

地方裁判所ノ判決ニ服セサルモノハ高等裁判所ニ控訴スルモノトス
 而シテ高等裁判所ハ倫敦ニ在リテ其權限ハ即チ地方裁判所ニ出訴ス

¹²Queens Bench Division
¹³Chancery Division

¹⁴High court of
Appeal

¹⁵High court of
Justice

ヘキモノ、外ハ一切之ヲ取扱フナリ彼ノ名譽恢復ノ如キモノハ之ヲ
高等裁判所ニ出スナリ而シテ此裁判所ハ又之ヲ二箇ニ區別シハいこ
いと、れふ、じやすちいすハ即チ始審廳ニシテ一ハハはいふいと、をふ、あつび
いるハ即チ控訴廳ナリ
始審廳ノ判事ハ十年間ハばりすとるハノ資格ヲ以テ代言事務ヲ取扱ヒタ
ルモノニ限り控訴廳ノ判事ハ十五年間ハばりすとるハナリシカ又ハ一年
間始審廳ノ判事タリシ者ニ限ルナリ
地方裁判所ハ判事一人始審廳ハ二十五人控訴廳ハ六人ナリ故ニ英國
判事ノ總數ヲ擧ケレハ百三十人ニ過キス此外警察裁判所ノ如キアル
モ判事ニアラスシテ彼ノ上院ノ如キハ我大審院ノ如ク法律ノ裁判ヲ
爲モ其判事三四名ニ過キサルナリ
始審廳ヲ分チテ三トス曰クハくいんすべんちぢびしよんハちやんせり

訴訟法

二十三

七三

七二

Lord chief of
England
Lord chancellor

Probate Divorce and Admiralty
Division

ちびしよん「ふるべ」でば「すねん」あどみらりち「ちびしよん」是
ナリ而シテ此三箇ノ區別ハ歴史沿革上ノ區別ニシテ決シテ法律ヲ以
テ定メタルモノニアラスシテ其職掌ニ由リシモノニアサルナリ古
昔「くいんすべんちびしよん」ノ長ヲ名ケテ「ろ」るとち「ふ、れふ、い
んぐらん」ト云フ即チ英國判事長ノ義ナリ「ちやんせりち」トびしよん
ノ所長「ろ」るとちやんせろる「ト云フ即チ英國大法官ノ謂ヒナリ又
「ふるへ」でば「すねん」あどみらりち「ちびしよん」ノ所長ハ其判
事中先任ノ者ヲ以テ任スルナリ始審廳判事ノ年俸ハ二萬五千圓控訴
廳判事モ二萬五千圓英國裁判長ハ四萬圓大法官ハ五萬圓トス始審廳
判事ハ一人ニテ法廷ニ出席シテ裁判ヲ取扱ヒ若シ之ニ服セサルノ再
審ヲ乞フモノアルトキハ更ニ三人ヲ集メテ審判セシムルノ制ナリ又
「ちやんせろる」ノ見込ニ由リテハ始審廳ノ各部ノ判事ヲ更代ニテ審判

チ爲サシムルコトアリ然レトモ其判事ノ多寡ニヨリテ權限ニ廣狹アルニアラス
「オブリーヴコー」とおふじゆぢちあ「ハ倫敦ニアルヲ以テ毎年其判事ハ地方ニ巡回シ裁判ヲ爲ス又英國判事長モ審判ノコトヲ掌ルモノトス蓋シ英國ニテハ日本ノ如ク裁判所長ト雖モ雜務ノ夥多ナルモノニアラス所長及ヒ判事ノ如キハ唯審判ヲナシ判決ヲ與フルニ過キサルナリ是レ畢竟裁判所ニ望ムヘキ必要構成ナリ
次に裁判所ノ構成ニ必要ナルモノハ書記ナリ
書記ハ裁判所ノ記録訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ保管シ且ツ其印章ヲ預カリ居ルモノニシテ訴訟書類ノ調製及ヒ捺印等ヲ爲シ訴訟入費ノ計算等ヲ主サトルナリ而シテ英國ニテハ判事ハ唯大體ノ事柄ヲ判定スルニ止マリ訴訟ノ繁雜ナルモノ、如キハ其事件ニ關係スル所ノ書

*Sheriff

†Barister
‡Saliciter

記ナシテ下調ヲ爲サシムルコトアリ
次ニ法廷ノ役員同様ニ取扱ヲ受クルモノハ代言人ナリ
英國代言人ニ二種アリ一ヲ「ばりしどる」ト云ヒ一ヲ「ろりすどる」ト云フ
「ばりしどる」ハ法廷ニ出テ訴訟ヲ取扱ヒ辨論ヲ掌トル「ろりすどる」ハ代
書人ノ如キモノニシテ其訴訟事件ニ關スル書類ヲ調製シテ訴訟ノ下
作ヘテ掌トル「ばりすどる」ハ「ろりすどる」ノ調製セル書類等ヲ携帶シテ
法廷ニ出テ其辯論ヲナシ以テ訴訟ノ是非ヲ争フヲ以テ専務トス而シ
テ前日述ヘタル所ノ「こんべーやんさる」ノ如キハ「ばりしどる」之ヲ取扱
フ要スルニ事實ノ集合ヲ爲スハ「ろりしどる」ノ手ニアリト云ヘシ
次ニ裁判所ノ職員トシテ必要ナルモノハ執行吏ナリ
凡ソ倫敦ノ都府又ハリばぶーるノ如キ地ニ於テハ府知事附屬ノ「しゑ
りふ」アリテ其職務ハ管轄内ニ於テ裁判執行ノ權力ヲ有スルモノニシ

テ重モニ其代理官ヲ以テ之ヲ行フ
 次ニ論スヘキハはうすねふるゝる也即チ華族院ニシテ立法部ナリト
 雖モ歴史上ノ沿革ヨリシテ裁判事務ヲ取扱フニ至リシナリ而シテ其
 職務ハ我大審院ノ如ク専ラ法律ノ裁判ヲ爲スモノニシテ事實ノ裁判
 ナ爲スモノニアラス又其判裁長ハるゝるとちやんせるゝる即チ大法
 官ニシテ其附属判事ハ同職員中法律碩學ノ者又ハ曾テ判事ノ職ニ在
 リシ職員ヲ以テ之ヲ任ス其年俸三万圓ナリ

第二回

前回ニテハ英國裁判所ノ構成及ヒ權限等ヲ説キシカ今回ハ其構成權
 限等ヲ規定スル處ノ法令ハ如何ナル處ヨリ發布スルカナ説カントス
 英國ニテ裁判所構成ノ如キハ最モ大切ナルヲ以テ議院ノ議決ヲ以テ
 定メタル布告ニ從ヒ其細則ハ判事之ヲ議定スルナリ日本ニテハ司法

上ニ關スル布告ハ總理大臣及ヒ其主務省ノ長官カ天皇陛下ノ旨ヲ享ケテ布告シ主務省ハ之ニ關スル細則ヲ作ルナリ故ニ司法上ニ關スル法律ノ布告アルニ方リテハ司法省カ其細則ヲ編制スルヲ以テ規則トス治罪法訴訟法ノ手續ノ如キ是ナリ

斯クノ如ク我日本ニ在リテハ司法省カ其細則ヲ作ルヲ以テ通例トナセトモ余ノ信スル所ニ依レハ英國ノ如ク裁判事務ニ熟達セル所ノ判事ヲシテ之ヲ議定セシムルトキハ大ニ實地ノ便益ヲ得ヘシト思考セリ併シ是等ノコトタル其國々ノ制度及事情ニヨリテ異ニシテ英國ニ可ナルモ日本ニ不可ナルヤ知ルヘカラサルモ當時止ムヲ得サル事情アリテ判事ニ委任スルヲ得サレハ格別裁判事務ニ密接ノ關係アル細則ノ如キハ判事ヲシテ規定セシムルヲ可トスヘキナリ

第一節 裁判所ノ權限

英國高等裁判所ハ控訴及始審ノ二アリ始審裁判所ハ更ニ三箇ニ區別セラル、コトハ前既ニ説ク所ナリ而シテ其區別タル歴史上ノ沿革ヨク來リシト云ヒシモ現在ニ於テ尙ホ存在スルハ實際便宜ナリト云フニ過キサルナリ元來英國ノ風トシテ凡ソ事ノ改正ノ後ニ至リテモ尙其跡ヲ存在セシムルコトアルハ其實地ニ長スル所以ニシテ日本人カ英吉利法律ノ講義ヲ聽クモノ、爲メニハ高等裁判所各部ノ司トル所如何ナルヤヲ説述スルノ必要アリ余ノ諸君ニ望ム所ハ審ニ邦語ノ講義而已ニ満足モスシテ遂ニ英米ノ原書ニ據リ法律ヲ研究シ以テ其精神ノアル所ヲ探討セラレシコトニアレハ茲ニ之ヲ説カントス既ニ述フル如ク英吉利法律ハ「こトど」アルニアラス故ニ其善美ナル所ヲ知ラント欲セハ學者ノ著書ヲ讀ムノミチヲ以テ足レリトセス其法理ノ據テ來ル所ノ判決例ヲ穿鑿セサルヘカラス然ラハ如何ニシテ其判

決ノ據ル所ヲ穿鑿スルカト云フニ裁判所ノ名ニ據テ以テ種々ノ判決
 例ヲ發見スルモノナリ即チ夫ノ「くいんすべんち」（あどみらるち）ノ如キ
 各其名ニ據リテ其裁判例ヲ穿鑿スルノ道アルノミ故ニ英吉利法律ヲ
 學フ人ニアリテハ以上ノ區別ヲ知ルハ最モ要用ナリト謂フヘシ併シ
 ナカラ余ハ深ク其沿革歴史ニ遡リ其原因由來ヲ説クヲ欲セス是レ蓋
 シ無益ナルノミナラス訴訟法ニアリテハ現行規則及ヒ之ニ關スル細
 則ヲ學フニアレハナリ
 諸君ハ英吉利法律ニテ訴訟ヲ取扱フノ機會ナク又在日本ノ英國裁判
 所ニ出訴スルコトアルモ英國倫敦ナル裁判所ノ區別アルニアラス之
 ナ學フニ方リ或ハ望洋ノ嘆アリ或ハ無益ナリトノ感ナキニアラサル
 モ之ヲ學フコトノ必要ナル理ニ至リテハ一ナリ凡ソ訴訟ヲ取扱フニ方
 リテハ間違タル裁判所ニ出訴スルコトヲ得サレハ何等ノ裁判ハ如何

ナル高等裁判所ノ權限ニ屬スルカヲ知ラサルヘカラサレハナリ加之
裁判所ニ依リテハ甚タ便不便ナルノ利害アリ必シモ古來ノ慣習ノミ
ナラス據テ以テ如何ナル裁判所ナレハ便ナルカ不便ナルカヲ察セサ
ルヲ得サルナリ
第一ニ「くいんすべんちでびえよん」ハ先ツ刑事ヲ掌リ其他民事ニアリ
テハ大概之ヲ司トルト雖モ重モニ掌トル所タル「こんもんろ」ヨリ起
リシ權利義務ノ審判ヲ司トルナリ故ニ第一田地ノ爭論又ハ其田地ノ
占有ヲ掠奪セラレタルニ付キ之カ取戻ヲ訴フルトキ其他財産取戻ノ
訴第二ハ身体ニ對シテ害ヲ加エタルトキ損害賠償ノ訴第三契約ニ關
シテ爭ノ起リシ時第四動産ノ所有ヲ妨ケ又ハ害ヲ加エ或ハ不動産ニテ
モ田地ニ害ヲ與ヘラレタル時是ナリ故ニ之ヲ大別スルトキハ財産權ニ
關スル訴訟私犯ニ關スル訴訟契約ニ關スル訴訟ノ三種トナスヲ得ヘシ

第二ニ「ちやんせれ」でびじよん」ノ司トル所ハ重モニ面倒ナル手續ヲ要スル場合ト云フヲ得ヘシ何トナレハ法律沿革論ヲ閱讀セラル、人ハ知ル如ク凡ソ法律ハ其初メ慣習ニ基キシモ漸次不足ヲ覺フルニ從ヒ衡平又ハ「ひくしよん」ニ據リテ之カ改良ヲ爲スナリ之ヲ英國ニ照セハ英國ニハ先ツ「こんもんろ」アリテ其實行ハ裁判所アリ其構成タル古昔ニアルヲ以テ其權限狭クシテ其保護スル所小ナルカ故遂ニ衡平ヲ實行スル所「ちやんせれ」ハ裁判所ヲ生スルニ至レリ今何故ニ其生ジタルカヲ尋ヌルニ「こんもんろ」ニテ可ナルモノトスルモ尙其出廷セル訴訟人ハ「ちやんせれ」裁判所ノ命令ヲ聽クノ責アリ故ニ若シ之ヲ聽カサレハ罰ヲ科スルト云フニアリ即チ其公事ニ立入ラサルモ其相手ニ對シテハ云々ノ事ヲ爲スヘシ爲スヘカラスト命スルノ權限ハ「ちやんせれ」裁判所ニ存スト云フニアルナリ

此ノ如クシテ「ちやんせれ」裁判所ノ司トル所ハ更ニ「こんもんろ」ノ
 權利ヲ補フカ又ハ「こんもんろ」ノ裁判所ニテハ充分ナル救正ヲ與フ
 ルヲ得サルヲ以テ之ヲ補フト云フニアリ故ニ「ちやんせれ」裁判所ハ
 社會ノ進ミタル時ニ起リテ他ノ救正ヲ爲スニアルヲ以テ今其司トル
 所ヲ擧クレハ財産處分ノ訴訟即チ債主財産分配ノ爭遺産處分計算要
 求ノ訴組合商社抵當處分ノ訴又ハ組合商社ノ約束ヲ解クコト不動産
 質取主カ質置人ニ元金利子入費等ノ償却ヲ請求スルコト又ハ負債主
 カ元金利子入費等ヲ拂ヒタルヲ以テ書入物ノ取戻ヲ請求スルヲキ又
 親ノ遺産ノ割賦ヲ要求スルコト或ハ田地ヲ分割スル訴訟財産管護ノ
 事柄ヲ實行スルノ訴又ハ正實約定書ノ取消改正或ハ契約ノ實行ヲ請
 求スル訴訟等皆「ちやんせれ」でビヒョん」ノ管理スル所ナリ
 「ちやんせれ」でビヒョん」ノ司トル所大畧此ノ如シト雖モ其詳細如何

日本裁判所ノ種類

ニ付テハ諸君カ財産法又ハ其他ノ法律ヲ學フニ付一々瞭解セラレハケレハ之ヲ畧ス

第三ニ「ぶろへー」とでぶーすゑんど、わどみらりちーでびトよん「ハ元來三箇ノ裁判所ヨリ成リジモノニシテ「ぶろべー」とこーと「ハ死者ノ遺産分配ヲ司トリ」でぶーすこーと「ハ婚姻ノ正否又ハ離婚ノ許否ヲ司トリ」わどみらりちーこーと「ハ船舶ニ關スル事柄ヲ司トルモノナリシカ一

千八百七十六年此三廳ヲ合シテ高等裁判所ノ一部トナスニ至レリ尙ホ其詳細ナルハ前學年ノ講義ニアルヲ以テ之ヲ畧ス

以上コテ英國裁判所ノ大畧ヲ説了シタリト信スレハ是ヨリ日本裁判所ノ種類ヲ講述セン

日本裁判所ノ種類

裁判所ノ種類ニ就テハ全ク日本現時ノ裁判所ヲ引用シテ論セントス

即チ其種類左ノ如シ
第一治安裁判所 第二始審裁判所
第三控訴裁判所 第四大審院
第一治安裁判所ニハ二箇ノ職掌アリ即チ一ハ百圓未滿ノ訴訟ニ對シ
法律ノ裁判ヲ下スコト二ハ凡ソ出訴セシトスルニ當リ法律ノ令ナル
如ク成ル丈ケ先ツ之ヲ治安裁判所ニ提出シ以テ其勸解ヲ受ケシムル
コト是レナリ然リ而シテ其勸解ヲ受ケルノ事件ハ固ヨリ金額ノ多少
ニヨリテ制限ナキモノトス又勸解ノ結果ハ多クハ不調ニ終ルモノト
ス然レトモ若シ或ハ提出セル事件ニシテ示談ヲ調ヒ後チ再ヒ之レニ
服セサルコトアルモ治安裁判所ハ之ヲ制スルノ權力ナキモノトス又
事ノ種類ニ依リテハ必スシモ勸解ヲ要セサルノ場合アリ事ノ緩急ヲ
爭フモノ或ハ物ノ湮滅ヲ恐ル、如キ是ナリ又新規則ニ依リテ登記ノ

コトヲ爲スモ是寧ロ司法上ヨリハ行政ニ属スルヲ以テ茲ニ略ス
 第二始審裁判所ハ百圓以上又ハ定額ニ見積ルヲ得サル事件ノ始審裁
 判ヲ下タシ又治安裁判所ニ於テ判決ヲ經タル百圓未滿ノ訴訟ニ對シ
 之レカ控訴ヲ受理スルノ權アルモノトス示シテ其ノ再ニ
 第三控訴院ハ始審裁判所ニテ始審ノ審理ヲ遂ケシ判決ニ對シ之レニ
 服セサルトキハ其覆審裁判ヲ下タスモノトス其ハ固ニ金圓ノ定額
 第四大審院ハ始審裁判所ニ於テ覆審シタル所ノ控訴裁判又ハ控訴裁
 判所ノ裁判ヲ以テ裁判所管理ノ權限ヲ越エ聽斷ノ定規ニ乖キ及ヒ法
 律ニ違フタルモノトシ其取消ヲ求ムルノ上告ヲ審理スル所トス而シ
 テ之ヲ是非シ以テ直ニ之ヲ裁判ヲ下シ又ハ之ヲ他ノ控訴院ニ移シ再
 理セシムルノ言渡ヲ爲スモノトス此他諸裁判所ニ於テ縣知事郡區長
 戶長等ノ如キ行政官吏職務上ニ就テノ訴訟ヲ裁判スルコトアリト雖

裁判權

モ是レ茲ニス論ヘキ者ニアラサルヲ以テ次ナル題目ニ移ルヘシ
 以上説ク所ヲ以テ第一裁判所ノ構成如何ヲ知得シ又裁判所ノ種類ハ
 如何ナルヤヲ述了セリ故ニ次ニ其裁判所ニ於テハ如何ナル權力アル
 ヤ即チ一般ノ裁判權ト特別ノ裁判權トヲ區別スヘシ
 裁判權ヲ分テ一般ノ裁判權特別ノ裁判權トス
 一般ノ裁判權ヲ有スル裁判所ハ廣キ裁判權ヲ有シ即チ特別ノ法律ヲ
 以テ禁セラレシ以外ノ判決ニ付テハ如何ナル事件ト雖モ之ヲ受理ス
 ルモノトス特別ノ裁判權ヲ有スル裁判所ハ狹キ裁判權ヲ有シ即チ或
 ル規則ヲ以テ指示セラレタル事件ノミノ審理ヲ掌トルモノトス換言
 セハ普通裁判權ヲ有スル裁判所ハ廣ク如何ナル事件ト雖モ之ヲ受理
 スル權利ヲ有スルモノニシテ其權限ヲ論スルニ寧ロ其權限ニ制限ナ

初審裁判
所及覆審
裁判所

シトノ推測ヲ以テスヘシト雖モ特別裁判權ヲ有スル裁判所ハ其權力
 普通裁判權ヲ有スル裁判所ノ如ク廣大ナラスシテ寧ロ如何ナル事件
 ト雖モ受理スヘカラサルノ推測ヲ下タスヘキモノナリトス
 例ヘハ民事裁判所ハ苟モ民事ニ關スル以上ハ何等ノ事件タリトモ之カ
 裁判ヲ下スト雖モ海陸軍裁判所ハ只軍人ニ關スル刑事ノ裁判ヲ下タ
 スノ權アルノミ又始審ニ於テ百圓以上ハ何等ノ事件ト雖モ之カ判決
 ヲ下スモノハ是レ普通裁判權ヲ有スルモノニシテ治安裁判所ニ於テ
 勸解ニアラスシテ百圓未滿ノ事件ニ對シ之カ裁判ヲ下タスハ是レ特
 別裁判權ヲ有スルニ由ルナリ
 次ニ初審裁判所ト覆審裁判所トノ別ヲ論述スヘシ
 初審裁判所及ヒ覆審裁判所
 初審裁判所ハ始テ訴出スル所ノ裁判所ナリ覆審裁判所トハ該裁判所以

下ノ裁判所ノ判決ニ對シ其誤謬ヲ匡正スルノ裁判所ニシテ其覆審裁
 判所トハ即チ始審裁判所ノ治安裁判所ノ判決ニ於ケル又控訴裁判所
 ノ始審裁判所ノ判決ニ於ケル及ヒ控訴裁判ヲ審理スル大審院ノ如キ
 是ナリ此他英國ニ於テハ種々ノ區別アレトモ無用ナルヲ以テ茲ニ之
 テ説述セズ
 又判事ハ如何ニシテ奉職スルカ各裁判所ノ權限區域ハ如何ナルカ諸
 君ノ熟知セル所ナルヲ以テ之ヲ略ス

第四回

既ニ説ク所ヲ以テ裁判所ノ何物タルト及ヒ茲ニ於テ事務ヲ取扱フ人
 ハ誰ナルカヲ説キ終リタリ
 今何故ニ訴訟法中ニ於テ訴訟人ヲ召喚スルノ規則ヲ講述スルコトヲ
 要スルカト云フニ凡ソ訴訟ナルモノハ彼ノ行政ノ如ク政府力之ヲ始

ムルモノニアラス政府ノ職務トシテ刑法ヲ執行スル爲メ治罪法ヲ設
 ケテ罪犯ヲ擔當セシムル場合アレトモ余カ講義ノ民事訴訟法ニ屬セ
 サルナリ
 又夫ノ法律家ニシテ裁判官ニアラサルモノ、中ニ二種ノ別アリ一ハ權
 利ヲ作爲スルコトニ從事スル者一ハ權利ノ實行ニ從事スル者アルコ
 トハ既ニ説キタル所ナリ而シテ訴訟法ノ重モニ補助ヲ與フル所ノモ
 ノハ權利ヲ實行スルコトヲ司トル代言人ニアリ
 日本人ノ考フル所ニ依レハ代言人ノ職務ヲ以テ公事師ト唱ヘ唯裁判
 所ニ出テ訴訟ヲ爲シ辯論ヲ試ムルヲ以テ其職務ノ如ク思惟スト雖モ
 是レ談謬ナリ蓋シ代言人ハ訴訟ヲ爲シ裁判所ニ出入スルノミヲ以テ
 其本職トセス可成訴訟ヲ滅シ裁判所ニ出入セスシテ落着スルヲ以テ
 本務トセサルヘカラス

凡ソ代言人カ依頼ヲ受ケテ第一ニ勉ムヘキハ依頼事件ヲ熟察シ之ヲ
取調ヘタル上ニテ果シテ訴訟ニ依ルニアラサレハ其事件ノ落着セサ
ルヤ否ヲ觀察シ訴訟ニ依ラスシテ落着スル道アラハ成ルヘク法廷外
落着ノ道ニヨルヲ良キトス故ニ夫ノ依頼人ノ來ルヤ否直チニ訴訟ニ
依リテ是非ヲ決セントスルハ貴ムヘキ所ニアラサルナリ
代言人ハ獨リ訴訟ヲ提起シ又ハ爭論ヲ爲スノ職ニアラサルモ我國現
今ノ位地アリ學識アル所ノ某代言人ニシテ余ト意見ヲ異ニスルモノ
アリ或ハ株式取引所ニ出入シ其頭取撰擧ノコトニ預ルカ又ハ某役員
事務取扱ニ過失アリ株主之ヲ攻撃スルニ方リ其爭論ヲ惹起ス方ニ關
係スルモノナキニアラス若シ其代言人カ株式會所ニテモ何處ニテモ
此ノ如キ頭取撰擧等ニ緻密ノ關係ヲ有シ眞ニ株主タルノ資格ヲ以テ
茲ニ出席スルハ當然ニシテ其職務ノ何タルヲ問ハサルナリ然レトモ

株式取引所ニ利益ヲ有スルカ故ニ出入スルニアラス争訟ヲ惹起ス爲メ
 法庭外ノ代言ヲ爲シ又其訴訟ヲ惹起シ報酬ヲ得ルカ爲メ又ハ之ヲ
 得サルモ據テ以テ虚名ヲ博セントスルハ識者ノ必ス疑フ所ナラン甚
 シキニ至リテハ元ヨリ金儲ケノ爲メニ株式所ノ争論ニ參席セシト云
 フモノアルニ至レリ然レトモ代言人ノ業タル學術ト實驗トヲ要スル
 モノニシテ嘗テ學知シタル所及ヒ得タル經驗トヲ以テ其帶フル所ノ
 信用ニ依リテ其職業ヲ取ルハ正道ナレトモ之ニ據ラス以テ此ノ如キ
 奇道ニ出テ卑劣手段ヲ爲シ虚名ヲ博セントスルカ如キハ相互法學者
 ノ從事スヘキモノニアラサルナリ
 元ヨリ今日ノ日本人ノ思想タル甚ダ卑劣ニシテ德義ニ拘ハラズ唯金
 儲ケスレハ人カ信用スルナラントノコトヲ以テ其職業ハ如何ナルニ
 モ構ハサルカ如クナレトモ其名譽ハ即チ虚言ノミ信用ハ却テ不信用

ナラントハ識者ノ信スル所ナリ
代言ノ業元ヨリ節操ヲ重シテ士タルヘキノ道ヲ盡スモノナリ三百代
言ヲ以テ名クルノ人ナレハ恕スヘキモ凡ソ學位アリ信用ヲ得ルコト
ノ容易ナルノ人ニシテ唯虛名ヲ博センカ爲メナスハ貴ムヘキコトニ
アラズ實ニ卑屈極マルモノト云フヘシ蓋シ反對ノ人ヨリ見レハ余ノ
言フ所ヲ以テ偏頗ト云ヒ卑屈ト云ハルヘシト雖モ識者自ラ別別スル
所アルヘシ
前述セル所ハ余ノ故ラニ演說シタルニハアテス序ナカラ述ヘタルノ
凡ソ依頼人來ルヤ事件ノ可否鑑定ヲ乞フアリ出訴ノ擔當ヲ依頼スル
モノモアリ又既ニ云フ通り代言人ノ職ハ濫リニ出訴スルノミニ限ラ
ス况ンヤ法庭ニ出テ喋々スルハ識者ノ好ム所ニアラス故ニ是ヨリ依

頼人ノ事件ヲ依頼セントスル者來ルトキハ如何ニ取調フヘキヤヲ説
 クヘシ
 凡ソ一事件ヲハ握リシ上ニテ第一ニ穿鑿スヘキモノハ依頼人カ其事
 件ニ關シ請求スル所ノ權利ヲ主張スル事實アリヤ否ヤ法律ハ之ヲ許
 スヤ否ニアリ而シテ其事實アリヤ否ハ其權利ノ基トスルモノニシテ
 英國ノ法律ヲ以テ論スルニ毆打創傷ノ如キモノヲ以テ損害ヲ要償ス
 ルハ民法ニテ要償シ得ルト雖モ若シ其事實ニシテ法律ニ該當スル所
 ナ欠ケハ之ヲ省セサルモ知ルヘカラス又契約ノ權利ニテモ之ヲ主張
 スル所ノ事實ナキヤ知ルヘカラス又法定ノ式ニ適ハサルヤモ知ルヘ
 カラス又財産權ニ關スル者ニテモ其賣買約定讓渡ノ手續ヲ經サルヤ
 モ知ルヘカラス此邊ハ能ク々々取調ヘサルヘカラス
 先ツ以上ノ事柄ハ事實法律ノ二者存スルモ更ニ考フヘキハ其事件タ

ル依頼人カ既ニ其權利ヲ失ヒシ事實アラサルヤ否又之ヲ失フニ就テ
ハ其人ノ行爲ニ依ルカ法定ノ規則ニ依ルカ其權利ヲハ放棄スル如キ
行爲ヲナセシコトナキカ又ハ法律ノ定メタル法式ヲ欠キタルコトナ
キカ或ハ出訴期限ヲ經過セシコトナキカヲ考ヘサルヘカラス
其他出訴期限ノ法律ハ大切ニシテ其何物タルコト又其期限ノコトニ
至リテハ種々ノ區別アリテ大概子左ノ如シ
英國ノ法律ニヨレハ出訴期限ハ正式ニ履ミ約定シタル負債ノ訴訟又
ハ田地ノ取戻地代ノ請求質入財産ノ取戻等ハ二十年トシ又他人ノ土
地ヲ侵シ他人ノ物品ヲ抑留シ又ハ間接ニ權利ヲ犯シタル私訴犯又拂
殘リノ家賃等ノ請求ハ六年内又身體動産ニ對シテ犯シタル直接損害
ノ訴ハ四年内讒謗ハ二年内トス
出訴期限ハ大略斯ノ如シト雖モ若シ被告人ニシテ婚姻シタル婦人ナ

ルカ又ハ幼者、癡癪人等ノ如キ精神慥カナラサル者ナルトハ出訴期限ハ經過セサルモノトス若シ又被告人外國ニ在ル時ハ其歸國スルマテ出訴期限ヲ中止スルモノトス然レモ連帶ノ場合ニ一人外國ニアリ一人内國ニ在ルモハ其訴權ハ内國ニ在ル人ニ對シテハ中止スルコトナシ凡ソ資格足ラサルカ爲メ出訴期限ヲ中止スルモハ訴權ハ資格ヲ備フルニ至リシヨリ始マル者ナリ若シ詐欺或ハ不正ノ手續ヲ以テ出訴期限ヲ隱シタルモ出訴期限ハ之ヲ發見シタル日ヨリ起算スルモノトス凡ソ幹法ハ訴訟ノ基礎トナルヘキモノヲ定メタルモノニシテ枝法トハ幹法ニ於テ定メタル權利ヲ主張スルニ當リテ用ヰル所ノ手續ナリ而シテ若シ一ノ幹法アリテ政府之ヲ取消シ新ニ幹法ヲ設ケタルモハ前ニ溯ルコトナシト雖モ枝法ニ至リテハ必スシモ前ニ溯ラスト云フコト得ス即チ出訴期限ノ如キハ枝法ナルヲ以テ或ハ前ニ溯リ幹法ヲ助

タルコアルヘシ故ニ凡ソ一ノ權利アリ出訴期限ヲ經過スルト雖モ必
ス權利ヲ消滅シタルニアラス唯出訴ノ權ヲ奪ハレタルニ止マルノミ
故ニ法庭ノ助力ヲ假リテ請求スルコト能ハサレヒ他ニ道アリテ之ヲ回
復スルヲ得ハ之ヲ請求シテ不可ナキナリ別言スレハ原告トナリテ請
求スルヲ得サレヒ被告トナリテ出訴セラレタルキハ已ニ妨ケラレタ
ルノ權刑ヲ以テ之ニ抗辯スルヲ得ルナリ
譬ヘハ代理人ノ訴訟入費ノ期限ハ六年ナリ然レヒ右六年經過ノ後若
シ其訴訟ニ關スル書類ヲ尙ホ手許ニ存シナキタルトキハ其書類ヲ抑
留シ又田地ナレハ其取上入額ヨリ取戻ヲ得ルカ如シ而シテ英國ノ手
續ニテハ若シ出訴期限ノ經過ヲ恐ル、キハ裁判所ニ請フテ召喚狀ヲ
發スルコトス此召喚狀ハ一年間有効ナルモノナレハ一年內ニ之ヲ被
告人ニ渡サズ時ハ可ナリ故ニ相當ノ理由アルキハ一年毎ニ裁判所ニ請

フテ召喚狀ヲ改ムルヲ得ヘシ
 次ニ訴訟ノ何物タルヤヲ考ヘ又何人ヲ訴フ可キヤヲ定メサル可カラ
 ス何トナレハ若シ其人ヲ誤リ訴フルキハ徒ニ入費ノ損失ヲナスヘシ
 故ニ十人ヲ訴フヘキ時ハ十人ヲ訴フヘシ一人ニテモ訴フ可カラサル
 モフヲ訴フルハ不可ナリトス元ヨリ一人一個ノ事ナレハ別ニ難事ニ
 アラサレモ組合商社會社ノ如キニ至リテハ大ニ注意セサルヘカラス
 組合商社ハ法律上人ト認メサルカ故ニ其社全員ヲ舉テ訴ヘサルヘカ
 ラス之ニ反シテ會社ノ如キハ政府ノ許可ヲ得テ設立シタルモノハ法
 律上無形人ノ資格ヲ有スルモノナレハ只社名ヲ以テ訴フルヲ得ヘシ
 又會社ノ名目アリト雖モ其實然ラサルモノアリ故ニ訴訟ヲ起サント
 セハ先ツ相手トスヘキノ人ヲ定メサルヘカラス若シ又既婚婦白痴者
 瘋癲人等ハ夫或ハ友人又ハ後見人ニ依リテ訴ヘサル可カラス

次ニ出訴スルニ付テノ手續ヲ述ヘン法律上ニテハ裁判所ニ訴フル前ニ私ノ請求ヲナスコトヲ要セサレトモ先ツ出訴スル前ニ一應ノ掛合ヲナスチ以テ通常ノ手續トナセリ又法律ヲ以テ特ニ定メタルモノアリ即チ代言人ノ代言料ヲ請求スルニハ凡ソ三十日前ニ入費ノ請求書ヲ渡シ三十日經過シタル後裁判所ニ訴フヘキモノトス然レモ被告逃亡スルモノト信スルノ情狀アルキハ直チニ訴フルヲ得ヘシ又局長警察官又ハ警部或ハ警視官ノ指揮ヲ受クル所ノ巡查ヲ訴フルトキハ其以前ニ出訴ノ旨ヲ報導スルノ規則ヲ設クルコト往々之アリ
已ニ訴訟事件ノ何物タルコト其權利如何ニ存スルヤ否ヲ考ヘ次ニ考フヘキハ依頼人ハ果シテ之ヲ請求スルノ權利アリ之ヲ支フル所ノ事實アリトシテ何人ヲ相手取ルヘキカヲ考フルコト是ナリ
既ニ云フ如ク訴訟ハ何人カヲ引キテ裁判所ニ訴ヲ爲スモノナレトモ

訴フヘカラサル者ヲ加エ訴フヘキモノヲ落スカ如キハ其第一着ヲ誤ルモノニシテ誤リテ訴ヘラレタルカ如キ者ハ直チニ其事柄ヲ以テ答ヘ訴訟入費ヲモ得ヘシ例エハ組合會社私立銀行ノ如キニ至リテハ大ニ注意ヲ要セサルヘカラサルモノアリ即チ法律上一箇人ト見做スモノハ各個人ヲ相手取ラサルモ可ナルヘシ又夫ノ組合社ノ如キモノニアリテハ各個人ヲ相手取ラサルヘカラサレハナリ若シ又既婚婦白痴者癡癲人等ハ夫又ハ友人後見人ニ依ラサレハ訴フルヲ得サレハ也次ニ考フヘキハ其請求スル權利ヲ主張スルニ十分ノ證據アルヤ否之ヲ聞糺シテ證據集メテ爲スヘシ又假令依頼ヲ受ケタルトスルモ依頼人ノ言ヲ容易ニ信セス即チ依頼人ハ眞實ヲ吐クモノトスルモ敢テ之ノミニ拘ハラズ他ニ尙ホ眞實ヲ探ルコトヲ勉ムヘシ又老練聰明ノ代言人ハ自ラ其探ルヘキ所ノ事實ヲ探クルコトヲ得ヘシ是レ即チ良醫

カ一ヲ聞テ十ヲ知ルト同シク實驗アル代言人ハ依頼人ノ述ヘタル事
ニヨリ之ヲ推究シテ証明ヲ助クルノ證據アリヤ否ヤヲ調ヘ之ヲ聚集
シテ遺スコトナキハ蓋シ其長所ノ一ニシテ凡人ノ及ハサル所ナリ
從來日本ノ有様ニテ外國ノ識者ヨリシテ訴訟延滞ノ譏ヲ受クルモノ
ハ其罪タル代言人カ先ツ充分ノ取調ヲ爲サ、ルニアリ其起訴シタル
後證據ヲ聚集スルハ未タ可ナレトモ出庭シタル後ニ於テ對手答辨ノ
都合ニヨリ再答ヲ試ムルカ如キ者多ク若シ出庭當日ニ臨ミ不都合ナレ
ハ病氣届ヲ爲シ機會惡シケレハ延期ヲ爲スヲ以テ常トス是レ裁判上ノ
信用ヲ欠クニ至ル原因ノ一ナリ代言人之ニ與リテ罪アリト云フヘシ
以上ニテ出訴ノ前ニ取扱フヘキ必要ナル手續又ハ出訴ノコトマテチ
説キタリ而シテ是等ハ訴訟法ノ外ニ渉ルノ嫌アルモ時弊默止シ難キ
カ爲メ其要用ナルヲ感シ茲ニ説キ及ヒタリ

第二章 訴訟人ヲ召喚スル規則

既ニ前學年訴訟法ニテ區別ヲ說キシカ如ク本章ニ於テ英吉利ノ日本
ト異ナルハ英吉利法律ノ手續ニテハ召喚狀ヲ發スルヲ以テ訴訟ヲ始
ムルノ第一着ノコト、ナシ他ノ之ヲ基トスル國ハ皆之ニ倣ヒ第一着
ニ召喚狀ヲ裁判所ニ請フヲ起訴第一着ノ手續ト云フノミナラス其訴
訟ニ關シ始ヲ起スノ手續ナルヲ以テ其爭題トナリ爲メニ判決ヲ要ス
ルニ至リタルモノ少カラサルナリ

既ニ云フ如ク裁判所ハ政府ノ一部ナルモ自ラ進ンテ事ヲ爲スモノニ
アラス例令ハ檢事ノ如キ裁判所ノ官吏ナリト雖モ判事ノ如キ司法官
ニアラス唯國家ノ安寧ト犯罪警察ノコトヲ掌ルノ行政官吏ニ過キス
シテ行政部ヲ代表スル所ノモノナリ故ニ決シテ裁判所ニテハ自ラ其
公訴事件ニ立入り之ヲ始ムルハ其警察探知ニヨルカ又ハ人民ノ請求

召喚狀ノ事

アル告訴ニヨリ其行政職務ヲ盡スト云ニ止ルナリ凡ソ訴訟ヲ爲スニハ訴訟人カ裁判所ニ乞フチ第一着トスルハ一般ニ論シタルモノニシテ英吉利ニテハ召喚狀ニヨリ日本ニテハ訴狀ニ基キ召喚狀ヲ發スルニヨリ被告ヲ管轄内ニ出廷セシムルニアラサレハ少シモ訴訟起ラサルモノナルコトヲ考フレハ只手續ノ異ナル所アルノミ是ヨリ英吉利ノ召喚狀ニヨリ其何物タルコト及ヒ之カ雛形ヲ揭示スヘシ

召喚狀ノ事

英吉利法律訴訟第一着ノ手續トハ即チ召喚狀ニ關スル手續ニシテ訴訟ノ手續中最モ能ク人ノ知ル所ノ者ナリ凡ソ訴訟手續トハ裁判所ニ於テ其管轄權限ヲ實用スル爲メ用ヰル所ノ法式ノ一ナリトス高等裁判所ノ訴訟手續ハ即チ令狀ノ形ヲ以テ成ルモノナリ令狀トハ

或ル事ヲ爲シ又ハ爲サ、ルヲ命令スル爲メ國王ヨリ發スル所ノ命令書ヲ云フ而シテ令狀ハ必ス其命令ヲ受クヘキノ人ニ宛テ、發シ法律ノ定ムル所ノ人其官名ヲ以テ其真正ナルヲ證印スルモノナリ令狀中裁判所ノ發スル令狀一ナラスト雖モ其最モ切要ナルモノハ民事訴訟ヲ始ムル爲メ被告ノ出頭ヲ命スルモノ即チ召喚狀是ナリ故ニ召喚狀ハ令狀ノ一種ナリトス

凡ソ民事訴訟ハ必ス召喚狀ヲ以テ始ムヘキモノトス召喚狀ハ民事訴訟原告ノ請求ニヨリ被告ヲシテ出庭セシメ原告ノ請求スル所ニ答ヘシムルノ目的ヲ以テ國王ヨリ發シタル命令書ナリ而シテ其令狀ハ必ス若シ被告ニ於テ期日ニ出庭セサルキハ欠席裁判アルヘキヲ示ス可キモノトス今其雛形ヲ左ニ掲ク

召喚狀雛形(表面)

千八百八十七年、第何號

高等裁判所「くいんすべんち、でび玄よん」

原告 い某

被告 び某

天佑ニ由リ大貌利顛及愛蘭合衆王國女王及ヒ宗教保護者タルらむ
くとりやヨリ

みどるせつさす州て、すとりーとび某へ

(心得書)

此令狀ノ送達アリタル日ヨリ起算シ八日内ニい某ヨリ訴へタ
ル訴訟ニ就キ我高等裁判所「くいんすべんち、でび玄よん」へ汝ノ
爲メ出頭届ヲ爲スヲ茲ニ命ス而シテ若シ汝ニ於テ之ヲ怠ル
トアルキハ原告ハ其手續ヲ續行シ汝ノ出席セサルモ裁判申渡

ヲ受クルコアルヲ忘ルヘカラス

大貌利顛大法官「ばろん」はるすべし茲ニ「ろんどん」てんぶるばしニ
於テ之ヲ證印ス時ニ千八百八十七年十二月五日也

此令狀ハ日附ヨリ十二箇月内ニ送達アルヘシ而シテ若シ其令
狀ヲ改ムルコアルキハ其日附ヨリ十二箇月内ニ送達スヘシ其
後ハ之ヲ送達スルコトヲ得サルモノトス

被告ハ「ろんどん、くいんすべんち、でびじよん」へ自身又ハ其代言
人ヲ以テ出頭届ヲ爲スコトヲ得

(裏面)

原告ノ請求ハ商賈ノ得意ヲ賣ルニ當リテ不實ノ陳述ヲ以テ其
取引ヲ爲シタルニヨリ損害ヲ要償スルニ在リ

千八百八十八 此令狀ハ原告何町い某ノ爲メ同人「そりすとる」「ろんどん」何町何

番地を某ノ發スル所ナリ

此令狀ハで某千八百八十七年十二月五日原告へ之ヲ送達セリ

で某記名

右ノ雛形ノ如ク召喚狀ノ本文ハ第一ニ其發シタル年月日番號原告名
字ノ頭字ヲ取ル及ヒ頭字ヲ記シ其次ニハ裁判所ノ名ト其部局及ヒ原
被告ノ名ヲ記ス

其次ニハ令狀ヲ被告ニ宛テ其送達アリタルヨリ八日內ニ指示シタル
場所ニ於テ出頭届ヲ爲スヘキ旨ヲ命シ且出頭届ヲナサ、ルキハ原告
ハ其手續ヲ續行シ直チニ裁判申渡ヲ受クヘキ旨ヲ警シ而シテ大法官
ノ名ヲ以テ之カ真正ナルコトヲ證印シ其發シタル日附ヲ記スルヲ以テ
茲ニ本文ヲ畢ル

次ニ心得書ノ部ニ至テ十二箇月內ニ此令狀ヲ送達スヘキコトヲ原告ニ

指示シ且被告ハ其出頭ヲ爲スヘキ場所ヲ示ス

又裏書ニ三種アリ第一、請求裏書ハ被告ヲシテ訴訟ノ何タルヲ知ラシムルカ爲メ其原告請求ノ概畧ヲ示スモノナリ第二、宿所裏書ハ被告ヲシテ明カニ原告ノ誰タルト其代言人ノ何人タルトヲ知ラシムル爲メ令狀ヲ發シタル代言人及ヒ原告ノ宿所ヲ記スルモノナリ而シテ若シ代言人ノ宿所裁判所ヨリ二まいる外ナルキハ訴訟書類往復ノ便ヲ得セシメンカ爲メ其区域内ニアル書類送達ノ宿所ヲ加書セサルヘカラス若シ原告自ラ令狀ヲ發シタルキハ其宿所及ヒ職業ヲ宿所裏書ニ記シ又宿所裁判所ヨリ二まいる以外ニアルキハ書類送達ノ宿所ヲ加書セサルヘカラス

第三ハ送達裏書ニシテ令狀ヲ送達シタル者ニ於テ豫メ存シタル空白ニ其送達ノ日時ヲ記入スルモノナリ而シテ若シ被告ニ於テ受取リタ

ルノ令狀ハ或代言人ノ發シタルモノ、如ク記入アルモ之ヲ疑フノ理由アルキハ先ツ之ヲ問ヒ質スヲ得而シテ果シテ其疑ヒ正シキモノナルヲ判事ニ於テ認ムルキハ訴訟手續ヲ續行スルヲ許サル、ニアラサレハ一切ノ手續ヲ中止スルモノトス

凡ソ召喚狀ハ豫メ印刷シタルノ雛形アリテ新ニ訴訟ヲ起スニ當テハ其文中ノ空白ニ新訴ニ關スルノ事實ヲ記入シ以テ完成ノ召喚狀ヲ得ルモノトス

右ノ雛形ニ記入ヲ爲スニ當リ第一ニ記入スヘキハ訴訟ヲ呈出スヘキノ裁判所ノ部局ニアリトス

却說訴件ノ何物タルヲ按シテ其裁判所ノ中上來示シタル所ノ何ノ部ヘ訴フヘキモノナルヤ即チ裁判所ノ各部ノ管轄ヲ定ムルヲ英國ニ於テハ法令及ヒ古來ノ慣例ニヨリ豫メ一定セルモノナリ而シテ就中

やんせり、でびせよんハ特ニ最モ錯雜シタル事件ヲ管轄スル所ナリ
今其重モナルモノヲ示セハ左ノ如シ

第一、死者ノ遺産ヲ支配スルコト

第二、組合商業閉店ノ殘務始末又ハ同業計算帳簿檢査ニ係ルコト

第三、書入質ヲ取戻スコト又ハ負債辨償ナキカ爲メニ之ヲ處分スルコト

第四、私有不動産ニ賦課シタル年金又ハ子孫養育ノ爲メ不動産ニ

賦課シタル年金ヲ判定スルコト

第五、差止權ノ屬スル財産ヲ賣却スルコト

第六、財産監護ノ事ヲ實行セシムルコト

第七、證書類ノ誤ヲ正シ又ハ之ヲ取消スルコト

第八、不動産ニ關シタル契約ノ履行請求

第九、不動産ヲ賣却シ又共有不動産ヲ分割スルコト

第十、幼年者後見ノ事又ハ其所有財産監護ニ關スルコト以上「ちやんせり」でビズよん」ノ管轄スル所ナレハ右等ノ事件ヲ出訴スルニハ必ス訴狀ニ訴名ヲ附シ且ツ「ちやんせり」でビトよん」部ト題セサルヘカラス

「ちやんせり」でビトよん」ニ於テ管轄スル所ノ訴件斯ノ如ク定マリタル所以ノモノハ必竟古來ノ沿革上ヨリ然ルモノニシテ同部ハ自ラ錯雜ナル性質ヲ有スル訴訟ノ取調ヲナスニ適當ナル機關ヲ備フルニヨルナリ

第五回

今回ハ尙ホ前回ニ續テ裁判管轄ノ事ヲ講センニ次ニ「ぶるべいと」でビズよん」ど、あどみらるてい、でビジよん」ノ管轄スヘキ事件左ノ如シ

第一、死者ノ財産處分書ハ正當ニ成立シタルモノナルヤ否ヤノ爭訟

第二、死者財産處分人處分權證明書ハ真正ナルヤ否ノ爭訟
 以上二件ハ舊來「ふるべいと」でびじよんニ屬シタルモノニシテ近來ニ
 至リ其でなるす、こゝると「及」て、「こゝると」ト合併シテヨリ更ニ左ノ事
 件ヲ管轄スルコトナレリ

第三、船賃滞ノ爲メ船賃船舶荷物ヲ差押フルノ訴件

第四、結婚ノ有無及ヒ適法如何及ヒ離縁ニ係ル爭訟

右四件ハ「ふるべいと」でならず、ゑんど、あせみらるでびじよんノ管轄ス
 ル訴件ナリトス

「くいんすべんち」でびじよんニハ前回掲ケタル訴件ノ外刑事其他契約
 ニ關スル損害要償ハ又差押物件ヲ取戻スコト等ニ關スルモノニシテ特
 ニ他部ニ屬セサルノ訴訟ヲ管理スル所ナリ
 又若シ訴訟ヲ起スニ當テ其訴件ノ何部ニ訴へ出ツヘキヤ其管轄ノ判

然セサルキハ先ツ「くいんすべんち」でびじよん」へ持テ出スヲ通例トス
 故ニ「くいんすべんち」でびじよん」ハ裁判所ノ他ノ部ヨリ其管轄スル區
 域靈口廣キモノトス
 上來講シタル所ニテ召喚狀ノ表面へ記入スヘキ事柄ヲ盡セリ次ニ記
 入スヘキハ裏書ナリ
 召喚狀請求ノ裏書ニ三種アリ第一、略示第二、特示第三、負債及入費裡書
 第一、略示裏書 略示裏書ノ例ハ既ニ雛形ニモ示シタル如ク損害要
 償ノ場合ニハ何々ニヨリ損害ヲ要求スト略記スル如キヲ云フ
 若シ原告自ラ訴ヲ爲スニ非スシテ代人ヲ以テスルキハ其旨ヲ書スヘ
 シ
 「ぶるべいと」でぼーす、ゑんぞ、おどみらるてい、でびじよん」ニ出訴スルハ
 其遺産處分ニ關スルモノナルキハ相續人トシテ出訴スルヤ又ハ遺産

處分人トシテ出訴スルカチ區別シテ記入セサルヘカラス
 第二、特示裏書、特示裏書トハ確定シタル請求金高ノ裡書ヲ云フモ
 ノニシテ確定請求金高トハ譬ヘハ借用證書面ニ何千何百圓也ト明記
 アル場合カ又ハ然ラサルモ請求金高ノ豫メ一定シテ精算若クハ調査
 チ經ルキハ相當ノ金額ヲ見積ルヘキモノナルキ概略ノ見積高ヲ記載
 スル場合ヲ云フ
 右ノ場合ニ於テハ請求ノ事柄、日付並ニ其他必要ノ事實ヲ簡略ニ記入
 スルモノナリ
 然レモ私訴犯ノ損害要償又ハ違約損害要償等又ハ或ル引渡スヘキ物
 件ヲ引渡サ、ルカ爲メニ他ヨリ買得セサルヘカラサルカ如キ場合ニ
 於テハ請求金高ヲ特示スルヲ得サルモノトス何トナレハ此等ノ場合
 ニ於テハ豫メ其請求金高一定シ居ラサレハナリ

抑々特示裡書ナルモノハ何等ノ爲メニ設クルヤト云フニ種々ノ利益
アルヲ以テナリ左ニ之ヲ述ヘン
被告ニ於テ若シ召喚狀ニ記入サレタル日付ニ出庭届チナサルキハ
請求高特示ナルキハ原告ハ別ニ請求高ヲ證明セスシテ裁判ヲ求ムル
ヲ得ヘシ是即チ原告ハ事實ノ審明ヲ俟ダスシテ欠席裁判ヲ受クルノ
便利アリト謂フ可シ
又被告ニ於テモ若シ別ニ原告ノ訴狀ヲ請求スルヲ要セスト認ムルキ
ハ直チニ召喚狀ヲ以テ訴狀ニ充ツルヲ得ルノ便アリ
第三、負債及入費ノ裏書、譬へハ小商店ノ賣掛代金ヲ請求スルキ其
代金總高並ニ訴訟入費金高ノ明記アリテ被告一々之ヲ以テ相當ナリ
ト認ムルキハ右全金額ヲ何日迄ニ返却スルヲ原告へ申入レ訴訟ヲ
中止スルヲ得ヘキモノトス

元來特示裡書ヲナスト否トハ原告ノ撰擇ニ任ズト雖モ負債及入費ノ裡書ハ必ス便宜ノ爲メ記入セサルヘカラサルモノトス而シテ此召喚狀ニ記入ノ日限内全金額送付セハ訴訟ヲ中止ス可シト云フ文言ヲモ附記セサル可ラス

被告ニ於テ若シ入費金額不當ナリト思惟スルキハ其取調ヲ裁判所ヘ請求スルヲ得ヘシ而シテ該記入ノ入費高六分ノ一ヲ裁判所ヨリ減セラル、キハ原告ノ「そりすとる」ハ入費取調ノ爲メニ要スル費用ヲ拂ハサルヘカラス

又訴訟事件ノ都合ニヨリ精算取調ヲ要スルキハ裏書ヲ爲シ置クモ可ナリ而シテ若シ斯ル場合ニ於テ被告日限内ニ出頭届ヲ爲サ、ルキハ原告ハ裁判判ヘ之カ取調ヲ請求スルヲ得ヘシ
召喚狀ニ記入スヘキ事柄ハ右ニテ論了セリ前ニモ述ヘタル如ク英國

ニ於テハ大抵ノ事ハ皆印刷版行セラル、チ以テ召喚狀ニ於テモ以上述へ來レルモノ、外ノ部分ハ悉皆印刷シタル雛形アリテ別段記入ノ勞ヲ取ラサルモノトス
此ノ如クシテ召喚狀ニ記入スヘキ事柄ヲ記入シ了リ之ヲ裁判所へ出シ其認印ヲ得贖本一通ヲ裁判所ニ存シ訴件録中ニ綴ラシム斯クシテ令狀ノ効力始メテ生スルモノトス而シテ之ヲ被告へ送達スルハ原告自ラ之ヲ爲スモノトス是我日本ノ訴訟手續ト異ナルノ點ナリ
余日本人ノ訴訟ヲ爲ス風ヲ觀ルニ大抵先ツ本人カ自分ニ於テ訴訟ヲ爲シ掛ケ半途ニ於テ到底其取扱方ノ困難ニシテ素人ノ手ニ能クシ難キヲ發見シ而シテ後始メテ之ヲ代言人ニ依托スルチ恒トスルカ如是甚タ訴訟上ニ於テ好マシカラサルコト謂ハサルヘカラス何トナレハ大抵常人ハ法律ノ適用ニ通セサルチ以テ代言人ノ手ニ渡スノ前ニ

アリテ多クハ紛雜ヲ醸シ詞訟ノ順序等ヲ破フルヲ恒トスルヲ觀レハ
 ナリ英國ニ於テハ然ラス何事モ分業ノ法盛ニ行ハレ訴訟ノ如キモ大
 抵始メヨリ之ヲ代言人ニ托スルヲ恒トスルヲ以テ無要ノ手數ヲ爲シ
 詞訟ノ順序ヲ亂ル等ノ憂ナク且大抵ノ大商家ニハ皆恒ニ代言人ヲ雇
 ヒ置クヲ以テ譬ヘハ家屋土地ノ賣買ノ如キ其他大ナル諸取引ニ於テ
 ハ初メヨリ代言人ヲシテ其取引ニ關係セシムルモノトス故ニ召喚狀
 ナ渡スモ通例原告代言人ヨリ被告ノ代言人ニ渡スモノニシテ此場合
 ニハ別段ニ委任狀ノ如キモノヲ要セス何トナレハ互ニ其誰人ノ代言
 人タルコヲ知り居リテ之ヲ質スノ用ナケレハナリ
 然レモ若シ右ノ恒例ニ反シ面ノアタリ被告本人ヘ送達セント欲スル
 片ハ召喚狀ノ謄本ヲ渡スカ又ハ正本ヲ示サハルヘカラス若シ又被告
 逃亡スルノ恐アリテ急速ヲ要スル片ハ略式ヲ以テ送達スルモ可ナリ

召喚狀ノ送達ハ新聞紙上ノ廣告ヲ以テスルヲ得ヘク又其他法律ニ定
メラレタル召喚狀送達ニ均シキ効力アル手續ヲ以テ送達ヲ爲スヲ得
ヘキモノトス
又被告若シ原告カ訴へ出テント欲スル裁判所ノ管轄地以外ニ在ルキ
ハ管轄外送達ノ手續ヲナスノ制アリ即チ原告ハ送達日限ニ就キ相當
ノ猶豫ヲ乞フヲ得ルナリ但シ猶豫ヲ乞フニハ里程ノ證明書ヲ出サ
サルヘカラス
被告人若シ外國人ナルキハ召喚狀ノ代リニ一種ノ通知書ヲ以テ召喚
狀ノ送達ト同様ナル手續ト見做スコアリ
被告人若シ數人アリテ或者ハ管轄内ニ在リ又或者ハ管轄ノ外ニ在ル
キハ孰レトモ一個所ニ送達スル能ハサルヲ以テ幾通カノ召喚狀ヲ別
々ニ送達スルヲ得ルモノトス

若シ被告人幼年者ナルカ又ハ瘋癲人ナルカ又ハ組合商業人若クハ會社ナル場合ニハ各其送達スヘキ人ヲ異ニス
幼年者ノ時ハ其父又ハ其後見人又同居人ヲ經テ本人ニ送達スルヲ要ス瘋癲人ナルトキハ其監護人ニ送達スルヲ以テ足レリトス
組合商業人ヲ組合商業人トシテ出訴スルトキハ其組合商業人ノ一人若クハ其組合ノ支配人ヘ送達シ又會社ヲ訴フルトキハ相當ノ役人ニ送達スルモノトス
若シ土地取戻ノ訴件ニシテ其土地ニ住者ナキトキハ其家屋若クハ土地ノ親易キ處ヘ召喚狀ヲ張り付ケ以テ送達ノ證トス
若シ又船舶ニ關シタル訴訟ナルトキハ船舶ニ荷物ニ關シタルモノナルキハ船ノ帆檣ニ貼付スルモノトス若シ荷物ヲ船ヨリ他ヘ積替ヘタルキニハ直ニ荷物ヘ貼付ス而シテ斯ル場合ニハ凡テ貼付シタルマ、

召喚狀ヲ殘シ置クモノナリ

荷物ノ預リ主若シ荷物ニ召喚狀ヲ張り付クルコトヲ承諾セサルトキハ預リ主へ渡スヲ以テ足レリトス

以上述フルカ如ク召喚狀ヲ至當ニ送達シタル日ヨリ三日内ニ何日何時ニ其送達アリタルヲ原告ニ於テ召喚狀ニ記入セサルヘカラス而シテ出廷届ヲナスヘキ日限ハ右送達日時ヨリ起算スルモノトス夫レ如此訴訟ノ始マリハ大抵何レノ邦國ニテモ召喚狀ノ送達ノ日ヲ以テスルカ故ニ斯ク之ヲ細說シ來ル所以也

上來述フル所ニ於テ召喚狀ニ關シテ原告カ盡スヘキ第一着ノ手續ヲ了レリ依テ次キニ之ニ對シ第二着ニ被告カ爲スヘキ手續ヲ述ヘン然リ而シテ余ハ今被告ノ爲スヘキ手續即チ出頭届ノコトヲ說クヘキ時期ニ會シタリト雖モ暫ク左ニ日本召喚狀ノ式ヲ舉ケテ參考ニ供ス

<p>訴訟番號</p> <p>明治二十年 第 壹 號</p>	<p>訴訟標目</p> <p>契約履行</p> <p>書類冊數</p> <p>貳冊</p>	<p>呼出</p> <p>神田區錦町三丁目十五番地 風間響</p> <p>原告水呑百助ヨリ前記ノ事件及出訴候ニ付別冊書類送達候條受取ノ日ヨリ十日内ニ當裁判所へ出頭答書可差出者也</p> <p>但住居ヨリ當裁判所へ至ルノ距離八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與へ候事</p> <p>明治二十年一月十日</p> <p>東京始審裁判所</p>	<p>狀</p> <p>印</p>
<p>受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由</p> <p>風間響不在ニ付雇人數井竹庵</p> <p>①</p>	<p>送達シタル場所</p> <p>神田區錦町三丁目十五番地</p>	<p>親屬雇人又ハ委任ヲ受ケタル者若クハ戸長ニ渡シタル時ハ其事由</p> <p>本人旅行中未ダ歸宅セサルニ付其雇人數井竹庵ニ渡シタリ</p>	<p>右之通取扱候也</p> <p>明治二十年一月十日</p> <p>使丁 日野孫次郎</p> <p>②</p>

右召喚狀ノ令スル所ハ其指示シタル日限内ニ答書ヲ携エテ出頭スヘ
シト云フニ在リテ讀者ノ自ラ其簡單ナルコトヲ解得スヘキニ依リ別
ニ詳述セス既ニ陳ヘタル如ク我召喚狀ハ訴狀ニ次テ發シタルモノナ
ルヲ知ルニ足レリ

第六回

前回ニ訴訟ヲ始ムルニ英國ニテハ召喚狀ヲ始トシ日本ニテハ訴狀ヲ
始トスルコトヲ説キタリ即チ召喚狀ヲ發シテ被告之ヲ受取ルカ又ハ
答書ヲ出シ相手之ヲ受取レハ被告ハ裁判所ノ管理内ニ立入り其命令
コテ指揮セラレヘキモノトナリタルナリ蓋シ英國ニテハ代言人カ召
喚狀ヲ作り之ヲ裁判所ニ出シテ署印ヲ請ヒ之ヲ得タル後代言人ハ之
ヲ小使等ニ持參セシメ相手ニ渡サシメ其旨ヲ記名セシム然ルニ日本
ニアリテハ召喚狀ハ裁判所ノ使丁ニ持行カシムルモノナレトモ之カ

爲メニ多少ノ不都合ヲ生スルコト徃々ニシテアリ故ニ日本代理人ノ
 信用ニシテ恰モ英國代理人ノ如クナレハ召喚狀ノ如キハ英國ノ制度
 ニ摸倣スルヲ以テ可ナリトスヘキカ然レトモ現今日本ノ事情ニテハ
 萬事皆裁判所ニテ取扱フモノナルカ故ニ非常ノ延滞ヲ來スモノナル
 ヘケレハ之カ弊害ヲ除カントスルニハ判事ノ雜務ヲ省キ唯論點ヲ定
 ムルヲ以テ足レリトシ可成其雜務ヲハ代理人又ハ其助手ニ托スルヲ
 可トスヘキナリ

原告ヨリ召喚狀ヲ渡シ了レハ被告ヨリシテ爲スヘキ手續ハ出頭届ナ
 リ日本ノ手續ニ於テ之ト同シキモノハ日本ニテ召喚狀ニ認印スレハ
 半ハ之ニテ用ヲ爲シ半ハ答書ヲ以テ之ヲ全フスルモノニシテ日本ニ
 テハ右兩手續ヲ以テ出頭届ト同一ノ効力ヲ有スルモノト云フヘシ
 英國ノ手續ニ依レハ召喚狀ヲ發シ之ニ裁判所ノ署印ヲ受ケテ之ヲ送

達セシ日ヨリ起算シテ出頭届ヲ爲シ訴狀答書ヲ出シ合セテ訴訟トナ
ルナリ

上來説キシ處迄ノ手續ニテハ訴訟人ハ全ク裁判所ノ管轄内ニ歸セル
モノナリ而シテ次ニ召喚狀ヲ受ケタル被告ニ於テ原告ノ要求ニ服セ
スシテ答辨セント欲スルトキハ召喚狀ニ於テ示サレタル場所ニ於テ
其日限ニ出頭セサル可カラズ

右出頭届ニ就キ論窮スヘキ點ハ第一如何ニシテ出頭スヘキヤ第二出
頭届ハ何レヘ出スヘキヤ及ヒ其時限如何第三如何ナル人カ出頭届ヲ
出スヘキヤ等コレナリ左ニ除々ト之ヲ陳ヘン
第一 裁判所ヘ出スヘキ出頭届ノ雛形左ノ如シ

出頭届

番號

裁判所ノ名

原告ノ名

被告ノ名

被告何某ノ爲メニ何月何日出頭ス

被告某
記名

代理人

被告代言人某ノ事務所ハ何街何番地ナリ

送達ノ場所モ亦同シ

被告ハ原告ヨリ奉呈シタル訴狀ノ

寫ヲ要ス

○若シ被告本人ナルキハ被告本人

何某ト記名スルヲ要ス (縦形畢)

若シ組合商業人カ其組合ノ名ニテ訴ヘラレタルキ例ヘハ丸善商社員
カ丸善商社ノ名ヲ以テ訴ヘラレタルキハ出頭届ハ商社員各自ニ爲サ
サルヘカラスト雖モ訴狀ハ尙ホ丸善商社ノ名ニテ續行スルヲ得
又一人ノ代言人一商社員數人ノ代理ヲ爲スキハ出頭届ハ一通ニテ足
レリトス
若シ不動産取戻ニ關シタル訴訟ニ付キ他人ニ不動産ヲ貸付シタルキ
持主自ラ出頭スルキハ持主ノ資格ヲ以テ出頭スルヲ記入セサルヘ
カラス
如此ク持主ノ資格ヲ以テ出頭スルニ當リ訴狀ニ記入アル不動産全体
ニ對シテ爭フニアラスシテ其幾分ニ對シテ爭フモノナルキハ其爭フ
部分ヲ記入スルモ可ナリ
第二、出頭届ハ召喚狀ニ記入アル裁判所ノ部へ出スヘキヲ勿論ナリ

訴訟法

七十七

ト六

又召喚狀ニ記入セル出頭期限ハ送達ノ日ヨリ八日間ヲ以テ普通ノ規則トスルカ如シ若シ八日ノ後被告出頭届ヲ出サ、ルキハ原告ハ大抵闕席裁判ヲ求ムルヲ得ルモノトス然レモ原告直チニ之カ請求ヲ爲ササルキハ被告ハ何時ニテモ裁判言渡マテ出頭届ヲ出スヲ得ヘク其場合ニハ矢張り八日内ニ出頭届ヲ出シタルモノト見做シ一般ノ手續ヲ行フモノトス

第三 遺言處分ニ付テハ何人ニテモ遺産ニ付キ利益ヲ有スルコトヲ証明シテ出頭届ヲ爲スコトヲ得ヘシ船舶ニ關スル時又之ニ同シ田地ノ爭訟ニ於テモ召喚狀ニ記入セサルモノト雖モ之ニ關係アルモノハ何人ニテモ出頭スルヲ得ヘキモノトス但シ斯ル場合ニハ何レモ必ス原告ヘ其旨ヲ通知セサルヘカラス

次ニ論スヘキ所ハ訴答狀ナリ然ルニ訴訟ノ目的ハ何カト云フニ別ニ
喧嘩ヲ爲スコアラス討論ヲ爲スコアラス畢竟原告共ニ意見ヲ異ニ
スルヲ以テ裁判所ニ至リ法律ニ由リ之ヲ定ムルモノナリト云フニ外
ナラス之カ意見ヲ定ムルトハ何カト云フニ之ヲ極言セハ左右ト云ヒ
又ハ黑白ト云フニ外ナラス何處ニテ左右黑白ノ分別スル點定マルカ
ト云フ處ヲ調フレハ裁判ヲ爲シ得ルモノナリ故ヲ以テ訴訟ノ論點必
要ナルニ至ル

輒今東京控訴院東京始審裁判所橫濱始審裁判所ニテ訴訟人ノ出訴規
則ヲ定メタルカ如キ我國モ亦訴訟ニ必要ナル事實及ヒ論點ヲノミ調
フルコト必要ナルヲ知り實驗ニヨリ此舉アルニ至リタルモノト云ハ
サルヲ得ス

既ニ事實ハ訴訟人之ヲ証明セサルヘカラス又之ヲ列舉セサルヘカラ

スト雖モ法律ハ判事之ヲ知悉スルカ故ニ代言人ハ法律ヲ舉ケテ之ヲ論セサルモ可ナリトノコトヲ述ヘタリ然ルニ日本ノ代言人ハ訴訟ヲ爲スヲ以テ討論ノ如ク考ヘ之カ論點ヲ定メスシテ僅少ノ法律ヲ識リタル所ヲ舉ケテ法廷ヲ以テ討論場ノ如ク思惟シ喋々辨論ヲ闘ハシ遂ニ黑白是非ヲ辨スルニ由ナキニ至ラシム是レ未タ訴答書々方規則ナキニ由ル莫大ノ長文ヲ綴リテ以テ訴訟入費ヲ取ルヲ以テ老練ナル英吉利法律家ハ訴答狀認メ規則即チ訴答法規ノ制アリ凡ソ訴答狀ヲ認ムルモノ此規則ニ據ルトキハ訴訟ノ論點ト事實法律兩者問題ノ岐ル所ヲ判定スルニ容易ナリ否ナ其自ラ生シ來ルト一樣ノ結果ヲ得ヘキナリ訴答法規ノ全章ハ我カ講義科目ノ骨髓ニシテ後ニ詳述スヘシト雖モ先訴答狀雛形ヲ採リテ之ヲ論スルノ前後兩者ノ何タルヲ述ヘ其必要ヲ知ラシムヘシ

余ハ訴答法規ノ名ヲ假リ英吉利法律ノ所謂「ぶりーでんぐ」ノ細則ヲ名
ケ其雙輪ノ一ナルコトハ已ニ之ヲ論セリ
元來「ぶりーでんぐ」ノ細則ハ英吉利法律家ト雖モ嫌忌スルモノナキニ
アラズ或ハ之ヲ評シテ曰ク「ぶりーでんぐ」ノ規則ハ嚴密ニ失シ却テ認メ
方ノ自由ヲ得サラシムルモノナリ即チ英國ノ訴答書類認方ノ規則ハ狡
隘ニシテ善良ナラスト是レ訴答法規ノ効用如何ヲ熟知セサルヨリ生
スルノ誤見ヲ有スルモノニ過キササルモノナリ英國ハ千八百七十五年
訴訟手續ヲ改定セシト雖モ其改定セシ所ハ其以前ヨリ用井來リタル
所ノ訴答法規ヲ棄却セシモノニアラス尙ホ之ヲ存シ其無用ナルモノ
ト有名無實ノ訴訟式ヲ刪除セシニ過キササルナリ
現ニ其慣習法ヲ改良セン爲メ撰任セラレタル審査委員云ヘルコトア
リ曰ク英吉利訴訟書類認方規則ハ獨リ英吉利法律ニ於テ起生セシ所

ノ論辨ヲ助クルノミニニアラスシテ他ニ亦非常ニ大ナル利益アリ蓋シ
 之ニ由リテ原被兩造ノ争フ所ヲ證明シ法官ノ争點ヲ判決スルニ付キ
 最モ便利ナル形態ヲ有スル書類ヲ生スルニ必要ナル器械ニシテ若シ
 其争點タル事實ノ問題ニ關スルノミナル時ハ之ニ由リテ直チニ其論
 點ノ何レノ邊ニ存スルコトヲ知り而シテ其事柄ニ適用的ノ事實證據
 ナ集ムルニ容易ナラシメ若シ又其論タル法律ノ問題ニ關スルモノナ
 ルトキハ事實審問ノ勞ナク從テ之カ入費ヲ要セスシテ直ニ其法律ノ
 論點ヲ穿鑿シ得訴訟ヲ決定スルノ助アルモノトス

英吉利判事「あびんじや」曰ク元來訴訟ニ於テ法律ト事實ノ問題ヲ混
 合セシムルハ是レ訴訟ノ方路ヲ誤ルモノニシテ只之レカ區別ヲ知ラ
 シムルモノハ訴答書類認メ方ノ規則アルノミト

訴答書類書キ方規則ノ功用如此右ノ規則ハ四五百年來ノ實驗ヲ積ミ

英吉利法律家ノ詳細論定セシモノナリ訴答書々キ方規則ハ英吉利法律學固有ノモノニシテ實ニ其所有物ナリト云フモ蓋シ過言ニアラサルナリ英吉利法律ヲ學フノ益ハ多クハ此學ヲ講スルニアリトス故ニ此規則ヲ學得セハ大ニ法律ヲ修ムル者ノ論理力ヲ研磨シ且ツ訴訟ノ爭點ヲ定ムルニ瞬速ナルノ術ニ長シ莫大ノ利益アルヤ明カナリ

訴答書類認メ方ノ規則ヲ學ヒ正ニ得ヘキ所ノ結果ハ何ソ曰ク判事ヲシテ法律ト事實ノ問題ヲ定メシムルニ當リ今其論點ハ果シテ何レニアリヤチ自然ニ之ヲ繰出サシムルノ道ヲ得ルコト是ナリ訴答書類認メ方ノ規則ヲ設ル所以ノモノハ爭點ニ關セサル議論ヲ省キ若クハ無用ノ審問ヲ避ケンカ爲メ兩造間ニ存スル所ノ眞ノ爭點ヲ定ムルノ手段ヲ作ルニアリ然シテ其手段ノ結果タル判事裁判ヲ下スカ爲メ爭點

ノアル所ヲ簡明ニシ且兩造ヲシテ無用ノ勞ト費用トヲ省カシムルニ
 アリ若シ此規則ニ據ラサルトキハ兩造共ニ爭ハサル所ノ事柄ヲ證明
 シ會テ請求モサリシ事柄ヲ記入シ又會テ陳述セサリシ事柄ニ對シ答
 辨スルカ如キ無用ノ勞ト費用トヲ要スルニ至ルヘシ
 訴答書類ニヨリテ以テ得ントスル所ノ目的ハ原告ニ於テ其請求スル
 所ヲ主張シ被告ニ於テハ其請求ヲ拒絕スルノ答辨ヲ主張シ原被兩造
 ノ間ニ存スル所ノ問題ヲ現出セシムルニアリ然リ而シテ此規則ヲ履
 ミ之ニ由リテ其希圖セシ所ノ結果ヲ得タルトキハ兩造ノ爭點ニ達シ
 タルモノニシテ即訴答書類ニヨリ論點ノ終ニ到着シタルモノト云フ
 ヘキナリ此ノ如クシテ次ニ兩造ノ前ニ現出シタル論點ハ法律ニ關ス
 ルモノト事實ニ關スルモノトノ別アリ所謂法律ノ問題事實ノ問題は
 レナリ(其別ハ別章ニ説明ス明法志林九十八號ヲ參觀ス可シ)故ニ原被

原則第一

兩造ノ争點ヲ定メ判事ヲシテ之ヲ明知セシムル爲メ訴答書類ニ如何ナルコトヲ記入シテ可ナルヤ例ヘハ事實ト法律トノ問題ヲ併記スルモ妨ケナキヤ否ノ規則ヲ明カナラシムルハ是レ訴答法規ノ司トル所ナリトス

今ヨリ訴狀ヲ初メトシ其次ニ來ル所ノ訴答書類ヲ記スルニ當リ心ニ記スヘキノ原則ヲ略示セントス

第一 凡ソ訴答書類ニハ争ハントスル所ノ事實ノミチ記スヘシ

之ヲ説明スルニ争點ノ事實ノミチ記シ其權利義務ノ如何ヲ記スヘカラス何トナレハ法律上ノ事柄又ハ法律コアリテ決スヘキ事柄ハ判事ノ知了スル所ニシテ敢テ訴訟人ノ不遜ニ之ヲ言ヘキコトニアラサレハナリ是ヲ以テ訴答書類ヘ法律ノ事柄ヲ記入スルヲ得ス只記シ得ルモノハ事實ノミナリト

ス例へハ物品代價渡拂ノ訴ヲ爲スニ當リ被告カ若干金ヲ以
 テ原告ヨリ其物品ヲ買得セリトノコトヲ記入セハ以テ足レ
 リトス被告ニ於テ物品ヲ買得セシカ故ニ之カ代價ヲ拂フヘ
 キ義務ハ被告カ負フヘキモノタル等ノコトハ之ヲ記スルヲ
 要セサルナリ又例へハ被告カ原告ヲ毆打シタリトノコトヲ
 以テ之カ損害要償ヲ訴ヘンニ只其毆打ノコトノミヲ記シ其
 毆打スヘカラサルノ責任アリ等ノコトハ之ヲ記スルヲ要セ
 サルナリ固ヨリ法廷ハ法律ヲ知ルヲ以テ只訴訟事實ノ何タ
 ルヲ明知セハ足レリ之レニ適用スヘキ法律ノ如何ハ訴訟人
 ヲ須テ然ル后知ルモノニアラサレハナリ
 第二 訴答書類ニ就テ事實ヲ記スルニ當リ其事實ヲ證明スルノ證
 據ハ之ヲ記スヘカラス

原則第二

第二